



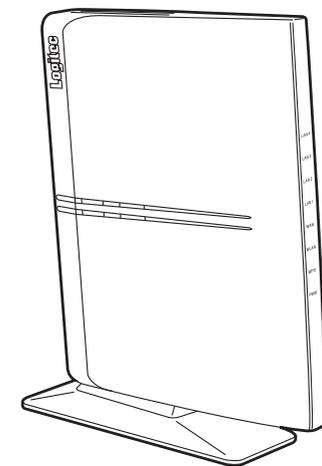
Wireless Broadband Router

IEEE802.11n/11g/11b対応 無線LANブロードバンドルータ

LAN-W301NR シリーズ

User's Manual

このマニュアルは、別冊の「かんたんセットアップガイド」とあわせてお読みください。



このマニュアルで使われている用語

このマニュアルでは、一部の表記を除いて以下の用語を使用しています。

用語	意味
本製品	無線LANブロードバンドルータ「LAN-W301NRシリーズ」を称して「本製品」と表記しています。
11n/11g/11b	IEEE802.11n規格を「11n」、IEEE802.11g規格を「11g」、IEEE802.11b規格を「11b」と省略して表記している場合があります。
11bgn	11n/11g/11bの略です。
無線ルータ	無線LANブロードバンドルータを略して「無線ルータ」と表記しています。
無線AP	「無線LANアクセスポイント」のことを略して「無線AP」と表記しています。
無線親機	無線ルータ、無線APを総称して「無線親機」と表記しています。
無線子機	無線LAN機能を内蔵したパソコン、無線アダプタを取り付けたパソコン、無線コンバータを接続した機器などを総称して「無線子機」と表記しています。また、無線アダプタ、無線コンバータそのものを「無線子機」として表記している場合があります。
有線クライアント	有線LAN機能または有線LANアダプタを搭載したパソコンなどを「有線クライアント」と表記しています。

このマニュアルで使われている記号

記号	意味
 注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTPサイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、ロジテック株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
- 本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での(海外からの)保守、サポートは行っておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
- Microsoft、Windows Vista、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®およびTMは省略させていただきました。

IEEE802.11n/11g/11b対応 無線LANブロードバンドルータ

LAN-W301NRシリーズ

User's Manual

ユーザーズマニュアル

はじめに

この度は、ロジテックの無線LANブロードバンドルータ製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには無線LANブロードバンドルータを使用するにあたっての手順や設定方法が説明されています。また、お客様が無線LANブロードバンドルータを安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みにになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	<p>この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。</p>
 注意	<p>この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。</p>

警告

- 

本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
- 

本製品から発煙や異臭がしたときは、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 

本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 

本製品を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

注意

- 

本製品を次のようなところで使用しないでください。

 - ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
 - ・直射日光のあたるところ
 - ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
 - ・静電気の発生するところ、火気の周辺
- 

長期間本製品を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
故障の原因になります。

無線LANをご使用になるにあたってのご注意

- 無線LANは無線によりデータを送受信するため盗聴や不正なアクセスを受ける恐れがあります。無線LANをご使用になるにあたってはその危険性を十分に理解したうえで、データの安全を確保するためセキュリティ設定をおこなってください。また、個人データなどの重要な情報は有線LANを使うこともセキュリティ対策として重要な手段です。
 - 本製品は電波法に基づき、特定無線設備の認証を受けておりますので免許を申請する必要はありません。ただし、以下のことは絶対におこなわないようにお願いします。

 - ・本製品を分解したり、改造すること
 - ・本製品の背面に貼り付けてある認証ラベルをはがしたり、改ざん等の行為をすること
 - ・本製品を日本国外で使用すること
- これらのことに違反しますと法律により罰せられることがあります。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近く、医療機器の近くなどで本製品を含む無線LANシステムをご使用にならないでください。心臓ペースメーカーや医療機器に影響を与え、最悪の場合、生命に危険を及ぼす恐れがあります。
 - 電子レンジの近くで本製品を使用すると無線LANの通信に影響を及ぼすことがあります。

もくじ

安全にお使いいただくために	4
---------------	---

Chapter 1 概要編 7

1 製品の保証について	8
2 サポートサービスについて	9
3 本製品の概要について	10
本製品の特長	10
本製品の動作環境	13
4 各部の名称とはたらき	14
5 設定ユーティリティについて	17
6 配線をおこなう前に	18
接続事業者との契約状況を確認する	18
終端装置のタイプについて	19
設定に必要なプロバイダ情報を用意する	19

Chapter 2 導入編 21

1 セットアップの流れ	22
2 本製品を配線する	24
3 ウィザードを使ったセットアップ	27
セットアップツールについて	27
設定ユーティリティを表示する	28
インターネット接続設定ウィザードで セットアップする	30
4 無線LANで接続する	35
はじめにご確認ください	35
WPSボタンを使って接続する	36
PINコードを入力して接続する	38
手動設定で接続する	40

Chapter 3 詳細設定編 43

1 インターネット接続設定(WAN側設定)	44
WANインターフェースの設定	44
DDNS(ダイナミックDNS)の設定	50
2 LAN側の設定をする	52
LAN側設定画面	52
固定DHCP設定画面	54
3 無線LANの設定をする	56
本製品で使用可能な通信モードについて	56
無線LANの基本設定	60
無線LANの詳細設定	78
アクセスコントロールの設定 (MACアドレスフィルタ)	79

WDS設定画面	81
サイトサーベイ画面	84
WPS機能の設定	85
4 セキュリティを設定する(無線の暗号化)	87
WEPの設定	89
WPAプレシェアードキーの設定	92
5 QoSを設定する	95
6 ファイアウォール機能を設定する	98
ポートフィルタの設定	98
IPアドレスフィルタの設定	100
MACアドレスフィルタの設定	102
ポートフォワーディングの設定	104
URLフィルタの設定	107
DMZの設定	109
7 ツール機能を使う	110
設定保存/読込	110
8 ファームウェアのアップデート	112
実行ファイルを使ったアップデート (Windowsのみ)	112
設定ユーティリティを使ったアップデート	114
9 システム設定	116
省電力設定	116
パスワード設定	117
10 ステータス	118
ステータス	118
パケット統計	120
システムログ	121
ログアウト	122

Appendix 付録編 123

1 APモードで設定ユーティリティに アクセスする	124
2 スマートフォンから手動で無線接続する	126
iPhone等/Android端末から 本製品に無線接続する	126
iPhone等/Android端末から インターネットに接続する	132
3 NTTサービス情報サイト利用時の設定	134
4 こんなときは	136
5 パソコンのIPアドレスの確認方法	139
パソコンのIPアドレスを表示する	139
工場出荷時での表示結果	142
6 基本仕様	143

Chapter 1

概要編

1 製品の保証について

製品の保証とサービス

本製品のパッケージに保障規定が記載されています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はご購入の日より1年間です。保証期間を過ぎた修理は有料になります。詳細についてはパッケージに記載された保証規定をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、ご購入の販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、パッケージに記載された保証規定をお確かめください。

●その他のご質問などに関して

P9「2. サポートサービスについて」をお読みください。

2 サポートサービスについて

よくあるお問い合わせ、対応情報、マニュアル、修理依頼書、付属品購入窓口などをインターネットでご案内しております。ご利用が可能であれば、まずご確認ください。

ロジテック・テクニカルサポート(ナビダイヤル)

TEL : 0570-050-060

受付時間：月曜日～土曜日 10:00～19:00

(祝日営業)※ただし、夏期、年末年始の特定休業日は除きます。

本製品は、日本国内仕様です。国外での使用に関しては弊社ではいかなる責任も負いかねます。また国外での使用、国外からの問合せにはサポートを行っておりません。
This product is for domestic use only. No technical support is available in foreign languages other than Japanese.

テクニカルサポートにお電話される前に

お問合せの前に以下の内容をご用意ください。

- 弊社製品の型番
 - インターネットに関するプロバイダ契約の書類
 - ご質問内容(症状、やりたいこと、お困りのこと)
- ※可能な限り、電話しながら操作可能な状態でご連絡ください。

設定ポータルサイトでも、
本製品の設定について詳細な手順を確認できます。
「えれさぼ」で検索してください。



3 本製品の概要について

本製品の特長

●IEEE802.11n準拠で最大300Mbps (理論値)の高性能ルータ

IEEE802.11nに準拠し、無線LANで最大300Mbps (理論値)という高速なデータ通信が可能です。障害物にも強く、1階と2階というような距離でも安定した通信が可能です。

●スリムでスマート、洗練されたデザインの無線ルータ

もっとも幅の広い背面部でも約24mmというスリムでスマート、洗練されたデザインの無線ルータです。縦置きはもちろん、横置きにも対応しますので、狭いスペースに効率よく設置できます。

●スマートフォン、タブレット、パソコン、ゲーム機などを複数台、同時に接続

あらゆるデジタル機器を同時に複数台、無線LANで接続可能です。通信距離は40mまでが目安となっており、ご家庭でも快適にご利用いただけます(※)。

※パソコンのみご利用の場合、同時接続台数は10台までとなります。また通信距離は環境により変化します。

●専用アプリとQRコードでiPhoneやAndroid端末からWi-Fi接続が可能

iPhone/iPad/iPod touchおよびAndroid端末のカメラ機能付きモデルから、本製品へWi-Fi接続するための専用アプリ「QRでかんたん接続」をご用意しました。「App Store」または「Google Playストア」からアプリをインストールして使用すると、QRコードを読み取るだけで簡単に本製品へ接続できます。カメラ機能を搭載していないモデルも、暗号キー入力による手動設定で接続することが可能です。

●設定ツールでパソコンからのインターネット接続がさらに簡単

付属CD-ROMの「かんたんセットアップツール」またはWebブラウザから利用できる「インターネット接続設定ウィザード」を使用することで、パソコンからのインターネット接続設定が簡単にできます。PPPoE接続、DHCP接続、固定IP接続という標準的なインターネット接続回線の種別を自動判別し、適切な接続方法が自動的に設定される「おまかせ接続」です。回線をあらかじめ調べて、手動で選択する必要がありません。

※ご利用の環境によっては、手動での設定が必要になる場合があります。

●ボタンひとつで設定完了、WPS機能に対応した無線LAN設定方式を採用

面倒な暗号化の設定を意識することなく、簡単に無線LAN接続を設定できる「WPS」機能に対応しています。本製品背面のWPSボタンまたは設定ユーティリティ画面上のWPSボタンを押すことで、セキュリティ設定済みの無線LAN接続を簡単に完了できます。また、設定ユーティリティを使った「PIN方式」での設定も可能です。

●ランプを消灯できる「省電力設定機能」を搭載

PWRランプ以外のランプを消灯して消費電力を抑える「省電力設定機能」を搭載しました。点灯/消灯の設定は、ユーティリティ上で簡単に変更できます。

●スイッチでルータを無効にできる「APモード」搭載

ケーブルテレビモデム、ONU、CTU、ADSLなどの終端装置にルータ機能が内蔵されている場合に、本製品のルータ機能をオフにできるAPモードを装備しています。背面のスイッチを切り替えて再起動をすることで、設定を変更できます。

●IPv6 Bridge機能を搭載

さまざまなアプリケーションや音声映像を楽しめるIPv6サービスを利用できるように、「IPv6 Bridge」機能を搭載しています。設定をオフにすることもできます。

●各種無線セキュリティ機能に対応

新しい規格であるWPA-PSK/WPA2-PSKに対応しています。WPAでは、暗号キーを一定時間ごとに自動的に変更しますので、外部からの不正解読が困難になっています。また、発信するSSIDを無線クライアント側で表示されないようにするSSIDステルス機能、無線クライアントのMACアドレスを指定してアクセスを制限するアクセスコントロール機能などを搭載しています。

●Webブラウザベースの設定ユーティリティを搭載

本製品の設定は、クライアントパソコンのWebブラウザ上から、本体に内蔵されたWebベースの設定ユーティリティを起動しておこないます。Webブラウザからの解りやすいメニューで操作できます。

●特定の通信の帯域幅を確保できる「QoS」機能に対応

全体の帯域のうち、特定のサービスに一定の帯域を確保できる「QoS」機能に対応しています。この機能を使うことで、ストリーミング映像を楽しんでいるときに、他のサービスに帯域を取られて、映像が止まるというような心配がなくなります。複数のサービスに個別に帯域幅を割り当てることができます。

●バーチャルサーバ機能を搭載

ポート転送(ポートフォワーディング機能)を搭載しており、本製品に接続したパソコンを「バーチャルサーバ」としてインターネット経由で安全に公開できます。PPPoE接続など、IPアドレスが動的に変化する環境でも、ダイナミックDNS(クリアネット)サーバへの接続機能を備えていますので、IPアドレスの変更なく運用が可能です。

●UPnPに対応

UPnP(Universal Plug and Play)に対応しています。Windows MessengerなどのUPnP対応ソフトが特別な設定をせずに利用可能なほか、UPnP対応ネットワーク機器との組み合わせで本製品を自動的に認識、設定できます。ネットワークゲームを安心して利用できるDMZ機能も備えています。

●その他、豊富な機能を搭載

- 接続する無線LAN規格を選択可能
- 「URLフィルタリング」「MACアドレスフィルタリング」などのフィルタリング機能を搭載
- 簡易サーバの設置に便利な「DMZ」「DDNS」を搭載。DDNSは、ロジテックの無料DDNSサーバClear-Netを利用可能
- 設定内容の保存やアクセスログの取得が可能
- 最新ファームウェアをダウンロードし、ファイルを実行するだけで自動的にファームウェアをアップデート可能※

※設定ユーティリティを使ったアップデートにも対応

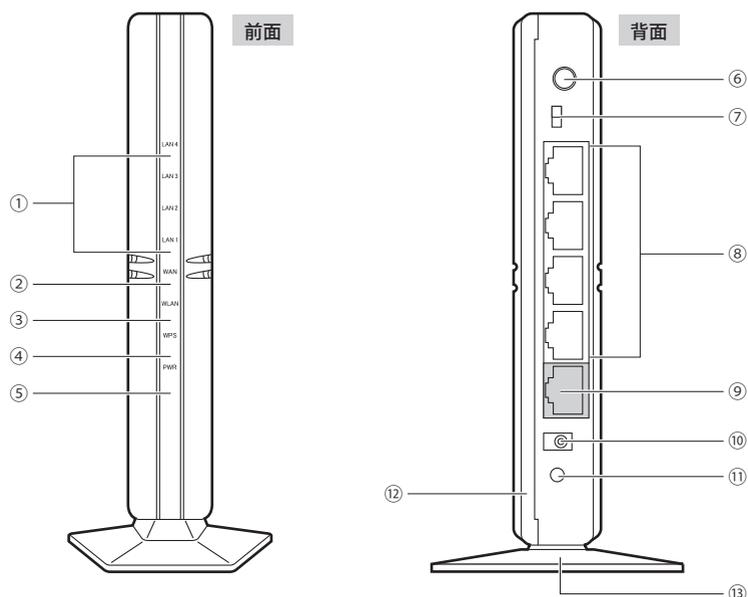
本製品の動作環境

ルータ機能については、TCP/IPプロトコルを利用できるパソコンおよびOSであれば使用できます。ただし、弊社では以下の環境のみサポートしています。

また、本製品の設定ユーティリティを使用する場合や、付属のCD-ROMに収録されている「Windows版：かんたんセットアップツール」を使用する場合は、以下の環境が必要です。

対応機種およびOS	Windows 8/7/Vista/XP を搭載するWindowsマシン Mac OS X (10.8/10.7/10.6/10.5) をインストールしたIntel製CPUを搭載したMac
対応ブラウザ (Web設定ユーティリティ)	Internet Explorer 5.5以降
かんたんセットアップツール	Windows 8/7/Vista/XP (SP3～) を搭載するWindowsマシン

4 各部の名称とはたらき



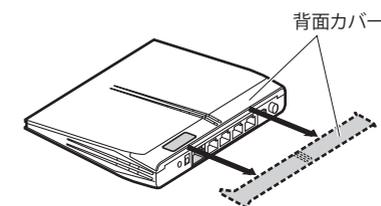
番号	名称	はたらき
①	LAN ランプ1~4 (青色)*	点灯：有線LAN接続のパソコンやネットワーク機器とリンクが確立しています。 点滅：データ転送中です。 消灯：未接続の状態です。
②	WAN ランプ (青色)*	点灯：WAN側とのリンクが確立しています。 点滅：データ転送中です。 消灯：未接続の状態です。
③	WLAN ランプ (青色)*	点滅：無線LAN機能を使用中です(電波を発信しています)。 消灯：無線LAN機能がOFFの場合に消灯します。
④	WPS ランプ (赤色)*	点滅：WPSボタンを押してWPS機能を実行している状態です。 約2分間、0.5秒間隔で点滅します。 消灯：WPS機能を実行していない状態です。
⑤	PWR (パワー) ランプ(青色)*	点灯：本製品の電源が入った状態です。 消灯：本製品の電源が切れた状態です。
⑥	WPS設定ボタン	WPS機能搭載の無線子機(無線アダプタなど)と接続するときに使用します。
⑦	RT/APモード 切り替えスイッチ	本製品をRT(ルータ)モードで使用するか、AP(アクセスポイント)モードで使用するかを選択するスイッチです。

番号	名称	はたらき
⑧	LANポート1~4	パソコンやネットワーク機器を、有線LANで本製品に接続するためのポートです。
⑨	WANポート(青色)	ブロードバンドモデムなどWAN側機器からのケーブルを接続します。
⑩	電源ジャック	本製品に付属のACアダプタを接続します。本製品に付属以外のACアダプタを接続しないようにしてください。
⑪	リセットボタン	このボタンを5秒以上押し続けると、WPSランプが点滅し、本製品の設定値が初期化されます(工場出荷時の状態に戻ります)。WPSランプが点滅している状態では、電源を切らないでください。
⑫	背面カバー	製造ラベルおよび暗号キーラベルを隠すためのカバーです。
⑬	スタンド	本製品は、付属のスタンドを使用することで、縦置き、横置きどちらにでも対応します。スタンドの使用方法については、P16「設置方法と設置時の注意」をお読みください。

※ランプの状態は、いずれも省電力設定が無効の状態を表します。省電力設定が有効のときは、PWRランプのみ点灯します。

●背面カバーについて(暗号キーラベルの確認)

本製品は暗号キーを容易に見られないようにするため、およびデザイン性を重視するために、暗号キーラベルを隠すための背面カバーが装着されています。情報の確認が必要な場合は、イラストを参考にして背面カバーを外してください。



設定情報シールについて

暗号キーを確認するために背面カバーを外すのが面倒な場合は、本製品に付属の「設定情報シール」を本体やマニュアルに貼り付けるなどして、ご利用ください。

SSID (初期値)	
1st	logitec-XXXXXX
2nd	logitec2nd-XXXXXX
暗号キー (初期値/共通)	XXXXXXXXXXXXXX (0~9, A~Hの大文字)
管理画面	IPアドレス 192.168.2.1 ユーザー名/パスワード(共通) admin
QRコード	スマートフォン/ タブレット Wi-Fi接続用 QRでかんたん接続 設定用コード
<small>情報漏洩にはご注意ください</small> MACアドレス:xxxxxxxxxx	

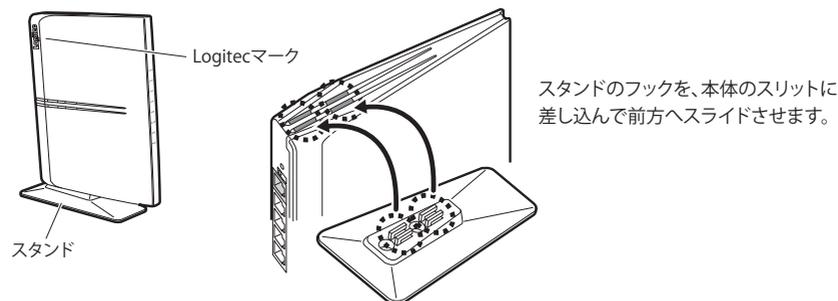
●設置方法と設置時のご注意

本製品は縦置き、横置きの両方に対応しています。縦置き/横置きいずれの場合も、必ず付属のスタンドにセットしてご使用ください。

いずれの方向で設置する場合も、転落・引き抜け防止措置をとってください。本製品が動作している状態での転落や、コネクタ類の引き抜けは故障・データ消失の原因となります。

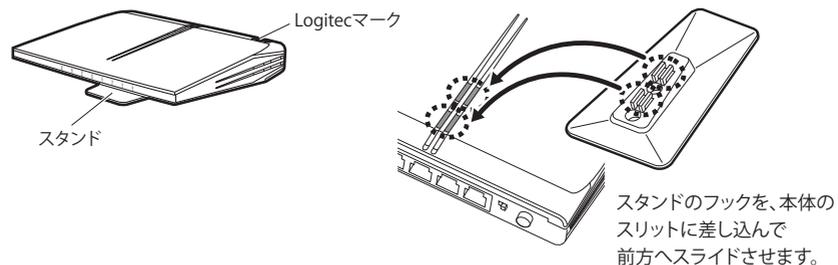
◆縦置き時

縦置きの場合は、側面のLogitechマークが上側になるように設置します。



◆横置き時

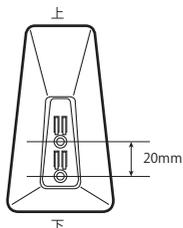
横置きの場合は、側面のLogitechマークが上面になるように設置します。



●壁面などへのネジ止めで固定する場合

本製品は壁面などに設置できるように、スタンドに2か所のねじ穴を用意しています。固定には直径(呼び径)3mmのネジ2本が必要です。設置面の素材および構造をお確かめになり、十分な強度を確保したうえで、本製品を取り付けてください。

また、本製品への電源供給のために設置場所近くにACコンセントが必要です。



5 設定ユーティリティについて

本製品の各種設定をするために、Webブラウザから利用できる設定ユーティリティがあります。ここでは設定ユーティリティの[ホーム]に表示されるボタンの内容を説明します。各ボタンの詳しい内容や設定方法については、該当ページをお読みください。



●設定ユーティリティを使用するには

設定ユーティリティをパソコンのWebブラウザで表示するには、本製品とパソコンを有線LANで接続するか、無線LANでパソコンから本製品にアクセスできるようになっている必要があります。

●設定ユーティリティの表示方法

P28「設定ユーティリティを表示する」をお読みください。



ボタン名	内容	参照ページ
かんたんセットアップツールスタート	ご利用になるインターネット回線の種別を自動的に判別し、適切に接続できるようにします。むずかしい設定は必要なく、どなたでも簡単にインターネットに接続できます。	→P30～
機器のステータス	機器の状態を表示します。	→P118～
詳細設定(上級者向け)	本製品の設定をカスタマイズします。項目によっては、ネットワークに関する十分な知識が必要です。	→P43～
管理ツール	本製品のファームウェアをアップデートしたり、設定を初期値に戻したりできます。	→P110～
IPアドレス開放	WAN(インターネット)側の接続を切断し、WAN側のIPアドレスを開放します。インターネットとは接続していない状態になります。	—
IPアドレス更新	WAN(インターネット)側のIPアドレスを正しく取得できなかった場合などに、現在のWAN側のIPアドレスを開放し、再取得します。	—

6 配線をおこなう前に

本製品の配線をおこなう前に、以下について確認します。

接続事業者との契約状況を確認する

次の内容を確認してください。

①回線事業者/プロバイダと契約は完了していますか？

回線事業者やプロバイダとの契約を完了しておく必要があります。また、フレッツサービスなどNTT西日本およびNTT東日本のサービスについては、別途プロバイダとの契約が必要です。

②終端装置は準備できていますか？

本製品でインターネットを楽しむためには、ケーブルテレビモデム、ONU、CTU、ADSLなどの終端装置と本製品を接続する必要があります。終端装置を別途購入されるように契約している場合は、対応する終端装置をご用意いただく必要があります。

③回線工事は完了していますか？

回線事業者/プロバイダとの契約に加え、屋内までの配線工事と終端装置の準備が完了している必要があります。すでに開通日を過ぎていることを確認してください。

④パソコン側の必要な機器は準備できていますか？

本製品の設定および本製品と接続するネットワーク機器には、有線または無線LAN機能が搭載されている必要があります。パソコン本体などに内蔵されていない場合は、別途LANアダプタや無線子機を準備してください。また、無線で接続する場合は、IEEE802.11n/11g/11bいずれかの無線LAN機能が搭載されている必要があります。パソコン本体などに無線LAN機能が内蔵されていない場合は、別途無線子機を準備してください。各機器のセットアップ方法については、それぞれのマニュアルをお読みください。

終端装置のタイプについて

本製品は、ルータ機能に無線LAN機能を搭載した無線LANルータです。現在、プロバイダから提供される終端装置には、すでにルータ機能が内蔵されている製品があります。ルータ機能内蔵の終端装置に本製品を接続する場合でも、本製品のウィザード機能を使用することで、適切な状態でインターネットに接続できます。ただし、終端装置に内蔵されているルータ機能を使用したい場合や、本製品をAPモードで使用したほうが、より良い性能を発揮できる場合があります。このような場合は、本製品背面にある「RT/APモード切り替えスイッチ(→P14)」を「APモード」側にして使用してください。

設定に必要なプロバイダ情報を用意する

本製品のウィザード機能は、ご使用になるインターネット回線の種別を自動的に判別しますので、一般的なインターネットサービスをご使用の場合は、あらかじめ回線の種別などを調べておく必要はありません。

ただし、NTTフレッツサービスなどPPPoE接続を使用している場合は、プロバイダから提供されるユーザーIDとパスワードが必要になることがあります。また、固定IPサービスなど特別なインターネットサービスをご利用の場合は、あらかじめ必要な情報をご用意ください。



●ウィザード機能について

ウィザード機能の詳細については、P30「インターネット接続設定ウィザードでセットアップする」をお読みください。

●APモードでご使用の場合

終端装置に搭載されたルータ機能を使用しているため、本製品をAP(アクセスポイント)モードで利用する場合は、Chapter 2「4.無線LANで接続する」(→P35)をお読みください。

●プロバイダの情報について

ご契約のプロバイダによっては、ここに説明した内容と異なる場合もあります。プロバイダ側の設定資料を参考に、本製品のインターネット接続の設定をしてください。

A PPPoE 接続方式の場合

NTTフレッツサービスなど「PPPoE接続」でインターネットに接続するプロバイダの場合は、ユーザーIDとパスワードが記載された資料がお手元に届いているはずですが、記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
接続方式	PPPoE
認証ID(ユーザ名)【接続ID】	
認証パスワード【接続パスワード】	

※プロバイダによって認証ID、認証パスワードの表記が異なることがあります。ユーザーIDに「@」が入っている場合は、プロバイダから提供された「ユーザー名」の後ろに、「@」と「プロバイダ識別子」を入力する必要があります。また、PPPoE接続でも、認証ID、認証パスワードが記述されておらず、入力が必要な場合があります。

**フレッツ光プレミアムなど、別途ルータ機能が用意されている場合**

プロバイダから提供されている終端装置に、ユーザーID、パスワードを設定しますので、本製品側での設定は不要です。

B DHCP 接続方式の場合

DHCP接続を使用している場合は、自動的にインターネットへの接続を開始します。本製品のウィザードを使用すれば、インターネット回線種別を意識したり、設定作業をおこなうことなく自動的に接続します。

C プロバイダから固定IPアドレスが提供されている固定IP方式の場合

インターネット側のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が固定で割り当てられるサービスです。次の内容をお調べのうえ、記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
WAN側IPアドレス※1	
WAN側サブネットマスク	
WAN側ゲートウェイ	
DNSサーバアドレス ※2	プライマリDNS
	セカンダリDNS

※1 グローバルIPアドレスです。 ※2 指示がある場合にメモしてください。

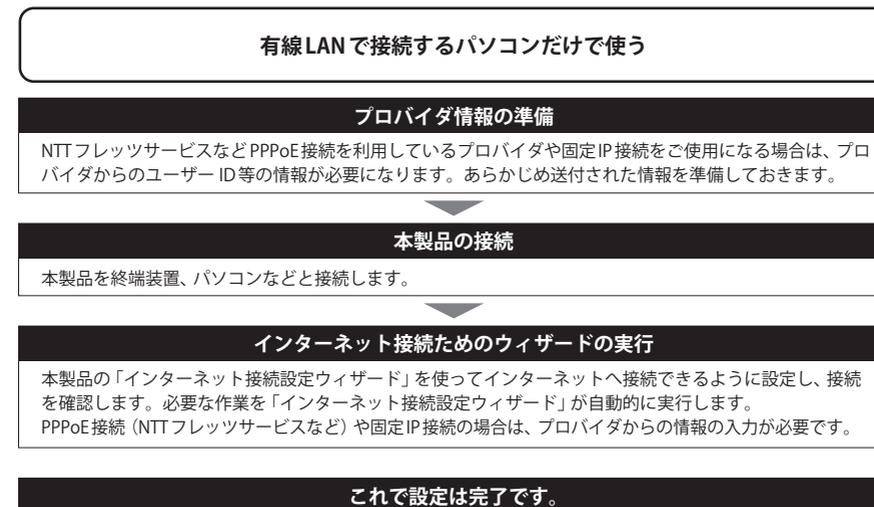
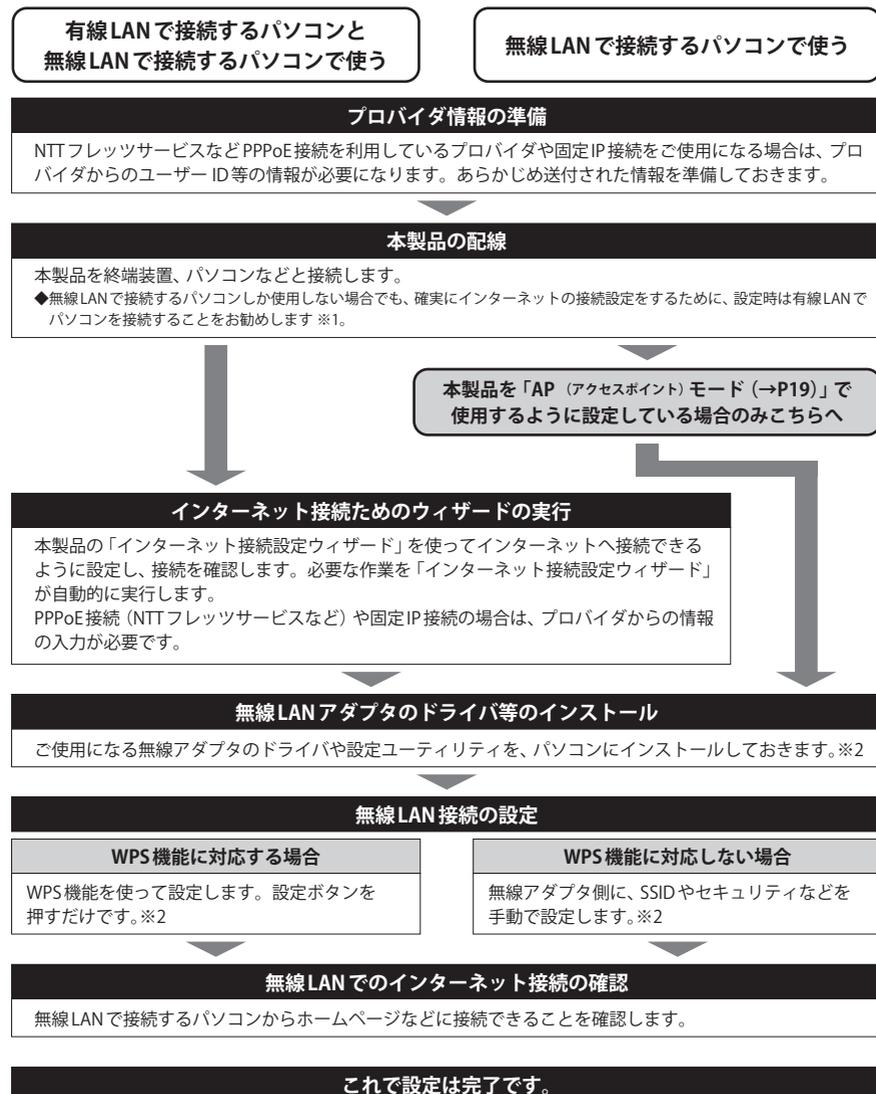
Chapter 2

導入編

本製品の導入方法について

本製品を使ってインターネットおよび無線LANに接続する手順については、本製品に付属の紙版マニュアル「かんたんセットアップガイド[導入編]」に、よりわかりやすい説明があります。「かんたんセットアップガイド」の説明書が見つからない場合は、付属のCD-ROMの「Manual」フォルダにPDFが収録されていますので、そちらをご使用ください。また、ロジテック ホームページからもダウンロードできます。

1 セットアップの流れ



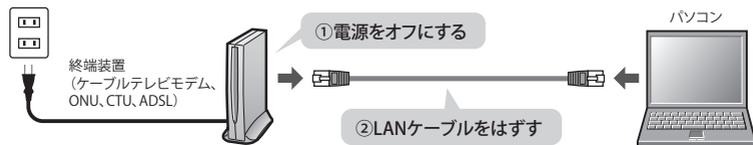
※1 無線 LAN でしか接続しない場合でも、設定時は本製品の設定ユーティリティに接続するために有線 LAN に対応したパソコンをご用意ください。

※2 無線子機側の設定については、無線子機の説明書をお読みください。

2 本製品を配線する

無線LANだけで利用する場合や、ゲーム機だけで利用する場合でも、初回は以下の説明どおりに接続し、正しく設定できているかをご確認ください。

1 すでにインターネットをご利用の場合は、以下の作業をします。



① すでにご使用の終端装置(ケーブルテレビモデム、ONU、CTU、ADSL)のいずれかがある場合、パソコンと接続したLANケーブルをはずします。

② 終端装置の電源を切り、LANケーブルを抜いた状態で、1時間以上そのまま置いておきます。
・終端装置に電源スイッチがない場合は、ACプラグを抜きます。

注意 終端装置の電源をいったん切らないと、現在記憶されている接続情報がそのまま残り、本製品を接続したあとの新しい接続情報に更新されず、インターネットへの接続に失敗する恐れがあります。

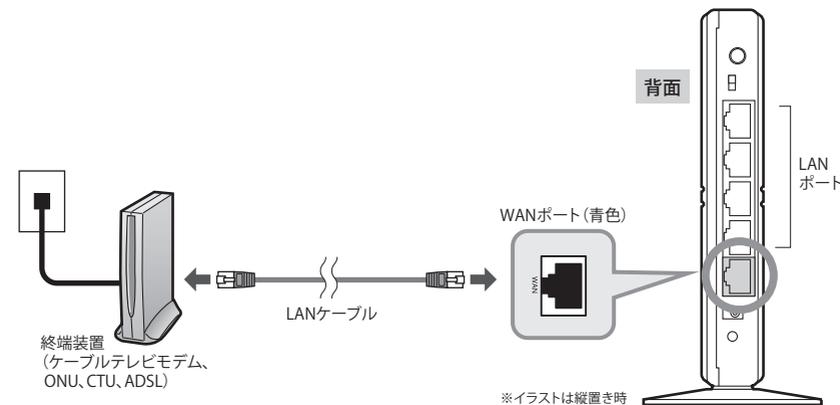
2 本製品を「AP(アクセスポイント)モード」で使用する場合は、「RT/APモード切り替えスイッチ」を「AP」側に変更します。

「インターネット接続設定ウィザード」を使用する場合は、ご使用の環境に設定を自動的に合わせますので、「RT(初期値)」側になっていることをご確認ください。

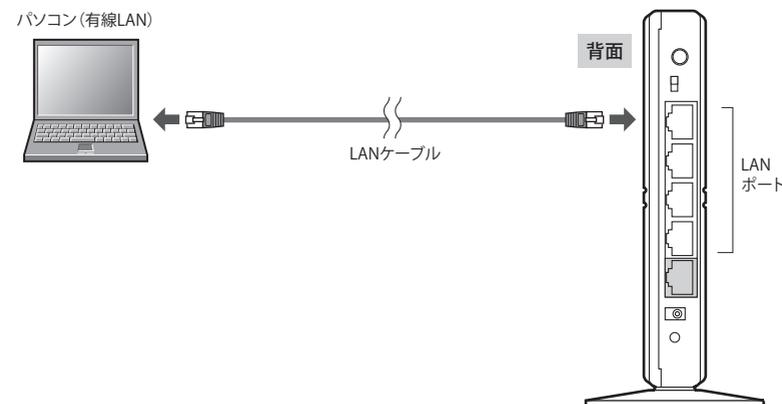
APモードを使用する

- ルータ機能を搭載した終端装置を使用したい場合、またはプロバイダから指示があった場合は「APモード」を使用してください。
- 本製品のWAN回線側にルータ機能を搭載した終端装置があるときは、本製品をAPモードで使用したほうが、より良い性能を発揮できる場合があります。このような場合も「APモード」を使用してください。

3 終端装置のLANポートと、本製品のWANポートをLANケーブルで接続します。



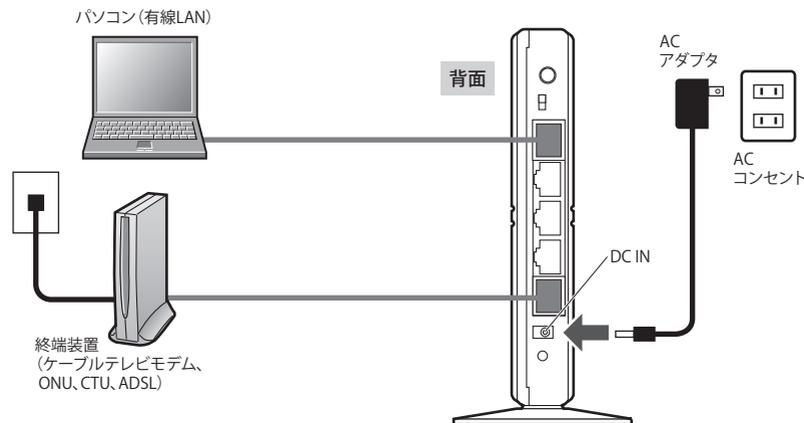
4 パソコンと本製品のLANポート(4ポートのいずれか)をLANケーブルで接続します。



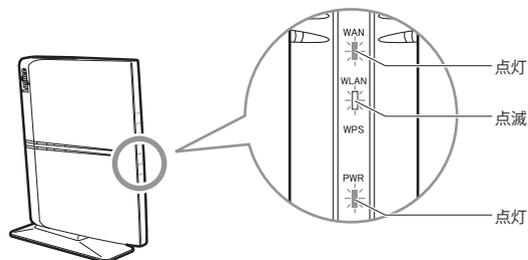
注意 有線LANを使わずに、はじめから無線LANで接続したい場合
P35「4.無線LANで接続する」を参考に、無線子機として使用するパソコンから本製品に無線LANで接続してください。

5 終端装置の電源をオンにします。

6 付属のACアダプタと本製品をつなぎ、ACコンセントに差し込みます。



7 終端装置と本製品の電源がオンになっていることを確認します。



- 点灯：PWRランプ(青色)、WANランプ(青色)
- 点滅：WLANランプ(青色)

※手順 **6** のあと、ランプが点灯するまでに約30秒かかります

8 次ページ「3. ウィザードを使ったセットアップ」へ進みます。



AP (アクセスポイント) モードに切り替えている場合

インターネット接続に関する設定は、終端装置のルータ機能で設定します。終端装置に付属の説明書をお読みになり、終端装置側の設定を済ませてから、[P35「4. 無線LANで接続する」](#)へ進みます。

3 ウィザードを使ったセットアップ

セットアップツールについて

本製品は、付属のCD-ROMの「かんたんセットアップツール」を使うことで、無線子機(無線アダプタ)のドライバのインストールや本製品との暗号化設定、およびインターネットへの接続設定が可能です。

また、本製品にパソコンからWebブラウザでアクセスすることで、Webブラウザ版の設定ユーティリティにある「インターネット接続設定ウィザード」を使って、インターネットへの接続設定を自動でおこなうことができます。無線子機(無線アダプタ)との設定は、WPS機能を使って自動接続ができます。



● AP (アクセスポイント) モードに切り替えている場合

本製品をAPモードに切り替えている場合([P19](#)参照)、本製品側ではインターネットへの接続設定は必要ありません。そのため設定ユーティリティ画面に、「インターネット接続設定ウィザード」は表示されません。[P35「4. 無線LANで接続する」](#)へ進みます。

● スマートフォン(iPhone等/Android端末)から接続設定をする場合

「かんたんセットアップガイド[補足編]」の「スマートフォン接続」をお読みください。

ここでは次ページより、「インターネット接続設定ウィザード」を使って、インターネットへ接続する方法を説明しています。無線子機からの無線接続については、[P35「4. 無線LANで接続する」](#)で説明しています。



CD-ROM版「かんたんセットアップツール」をお使いになる場合

「かんたんセットアップツール」を使ってセットアップする場合は、本製品に添付された別紙「かんたんセットアップガイド[導入編]」をお読みください。



Windows版：かんたんセットアップツール

 iPhoneやAndroid端末のカメラ機能付きモデルから、専用アプリとQRコードを使って、本製品へのWi-Fi接続とインターネット接続ができます。カメラ機能を搭載していないモデルも、手動設定で接続することが可能です。

詳しくは、P126「2. スマートフォンから手動で無線接続する」または本製品に付属の紙版マニュアル「かんたんセットアップガイド[補足編]」をお読みください。

設定ユーティリティを表示する

本製品の設定ユーティリティは、パソコンからWebブラウザを使って表示します。

 **パソコンはIPアドレスが自動取得になっている必要があります**
このマニュアルでは、本製品のDHCPサーバ機能により、パソコンがIPアドレスを自動取得することを前提に説明しています。パソコンに固定のIPアドレスを設定している場合は、パソコンのIPアドレスを変更しなければならないことがあります。

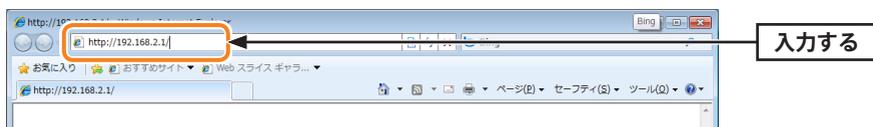
本製品のIPアドレス(初期値) = 192.168.2.1

1 終端装置と本製品の電源が入っていることを確認してから、設定用のパソコンを起動します。

• 順序が逆の場合、パソコン側がIPアドレスを正常に取得できず、設定画面にアクセスできないことがあります。

2 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

3 Webブラウザの「アドレス」欄に、キーボードから「http://192.168.2.1」と入力し、キーボードの[Enter]キーを押します。



(画面はInternet Explorerの例です)

• このIPアドレスは初期値です。すでに本製品のIPアドレスを変更している場合は、変更後のIPアドレスを入力します。

4 認証画面が表示されます。

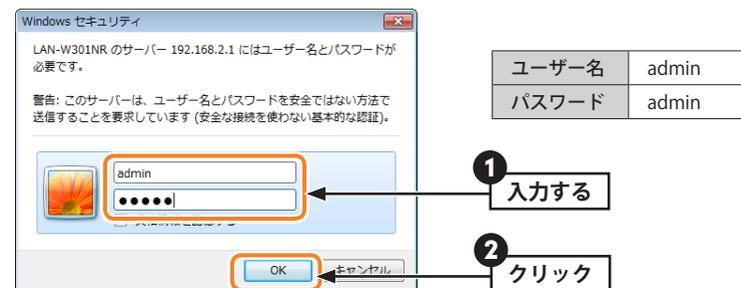


 認証画面が表示されない場合

以下の順序で確認してみてください。

- ① 本製品の電源が入っているか、LANケーブルの接続は正しいかを確認してください。
- ② いったんパソコンを終了し、本製品の電源を入れて3分以上たってからパソコンの電源を入れてください。
- ③ 接続しているパソコンのIPアドレスを確認してください(→P139「5. パソコンのIPアドレスの確認方法」)。

5 本製品のユーザー名とパスワードを入力し、**OK**をクリックします。



- 初期値は表のとおりです。半角英数字の小文字で入力します。
- 本製品の設定ユーティリティが表示されます。
- 次ページの「インターネット接続設定ウィザードでセットアップする」へ進みます。

 不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、パスワードの変更を強くお勧めします(→P117「パスワード設定」)。

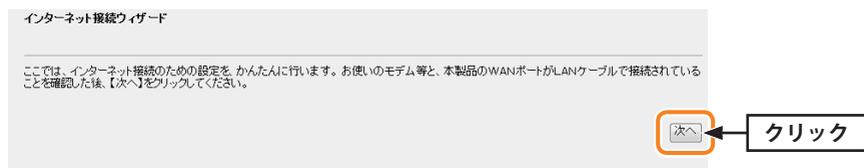
インターネット接続設定ウィザードでセットアップする

Webブラウザ版の「インターネット接続設定ウィザード」を使って、セットアップする手順を説明します。

1 [かんたんセットアップツールスタート]をクリックします。



2 機器の接続が完了していることを確認する画面が表示されますので、[次へ]をクリックします。



- インターネット回線の種別の自動識別が始まります。

3 インターネット回線の種別により、以下の4つの場合があります。

●DHCP接続の場合

DHCP接続を使用している場合は、自動的にインターネットへの接続を開始します。そのまま手順 **5** へ進みます。

●PPPoE接続の場合

NTTフレッツサービスなど、PPPoE接続を使用している場合は、プロバイダ情報を入力する必要があります。手順 **4a** へ進みます。

お使いの回線は、PPPoE回線です。ご契約のプロバイダ様から提供されている、認証ID(ユーザー名)・認証パスワード(パスワード)を入力し、『次へ』をクリックしてください。
ユーザー名は、"@以降も必ず入力する必要があります。

PPPoE 1:

ユーザー名:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="password"/>

●固定IPサービスの場合

プロバイダ情報を入力する必要があります。手順 **4b** へ進みます。

お使いの回線は、固定IP回線です。ご契約のプロバイダ様から提供されている、IPアドレス情報を入力し、『次へ』をクリックしてください。
もし違う回線である場合は、配線が間違っている可能性があります。『戻る』をクリックし、もう一度やり直してください。

プロバイダから指定されたIPアドレス:	<input type="text" value="172.1.1.1"/>
サブネットマスク:	<input type="text" value="255.255.0.0"/>
DNSアドレス:	<input type="text"/>
プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイアドレス:	<input type="text" value="172.1.1.254"/>

- 本製品(無線ルータ)の上位にすでに別のルータが設置されている場合
確認のメッセージが表示されます。「次へ」をクリックし、手順 **5** へ進みます。

本製品の上位にもルータが設置されています。
ここでは、このまま『次へ』をクリックしてインターネットに接続します。

自宅サーバ等、高度なネットワーク技術を必要とする使い方をされる場合、本製品をAPモードに変更した方がより良い性能が発揮される場合があります。
通常のインターネット接続/ネットゲーム等のご利用の場合は、このままのモードで問題ありません。



- ・通常は、そのまま変更しなくても正常にインターネットに接続できます。
- ・本製品(無線ルータ)のモードを変更したい場合は、P19「[端末装置のタイプについて](#)」をお読みになったうえで、「RT/APモード切り替えスイッチ」を「AP」側に変更します。



その他の画面が表示された場合

「インターネット接続に失敗しました・・・」「WANポートにLANケーブルが接続されていないようです。」などの画面が表示され、インターネットに接続できない場合は、以下のようなことが考えられます。

●ケーブル等が正しく接続されていない

ケーブル類が正しく接続されているか、機器の電源が入っているかなどを確認してください。機器の接続方法については、P24「[2. 本製品を配線する](#)」をお読みください。

●インターネット回線種別を自動判別できない

接続先の端末装置やご使用の環境によって、まれに本製品の回線判別機能では、回線種別を自動的に判別できない場合があります。このような場合は、P44「[1. インターネット接続設定 \(WAN側設定\)](#)」をお読みになり、通常接続/固定IP/PPPoEの中から、回線種別を選択したうえで、必要な設定をしてください。

- 4a** P19「[設定に必要なプロバイダ情報を用意する](#)」でメモした内容をもとに必要な情報を入力し、「次へ」をクリックします。

お使いの回線は、PPPoE回線です。ご契約のプロバイダ様から提供されている、認証ID(ユーザー名)・認証パスワード(パスワード)を入力し、『次へ』をクリックしてください。
ユーザー名は、「@」以降も必ず入力する必要があります。

ユーザーIDに「@」が入っている場合
[ユーザー名]の入力において、プロバイダから提供された「ユーザー名」の後ろに、必ず「@」と「プロバイダ識別子」を入力してください。
(例) userid123@logitec.net
ユーザー名 プロバイダ識別子

PPPoE 1:

ユーザー名:	userid123@logitec.net
パスワード:	*****

戻る 次へ

クリック

- 4b** P19「[設定に必要なプロバイダ情報を用意する](#)」でメモした内容をもとに必要な情報を入力し、「次へ」をクリックします。

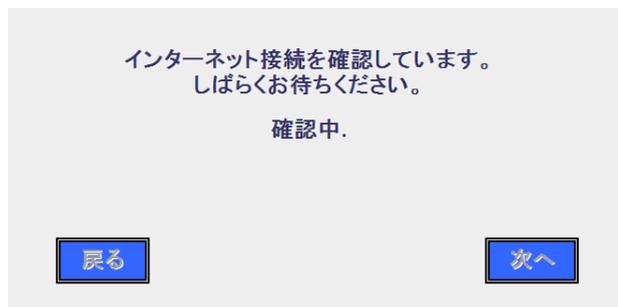
お使いの回線は、固定IP回線です。ご契約のプロバイダ様から提供されている、IPアドレス情報を入力し、『次へ』をクリックしてください。
もし違う回線である場合は、配線が間違っている可能性があります。『戻る』をクリックし、もう一度やり直してください。

プロバイダから指定されたIPアドレス:	172.1.1.1
サブネットマスク:	255.255.0.0
DNSアドレス:	
プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイアドレス:	172.1.1.254

戻る 次へ

クリック

5 インターネットに接続できるか自動的に確認します。



インターネットに正常に接続できると、以下の画面が表示されます。

インターネット接続が確認できました！
インターネット接続設定を終了します。
右上の × をクリックし、本画面を閉じてください。

- 画面右上の  をクリックしてブラウザ画面を閉じます。

6 これでインターネットへの接続作業は完了です。引き続き、パソコンと本製品を無線LANで接続する場合は、P35「4.無線LANで接続する」へ進みます。

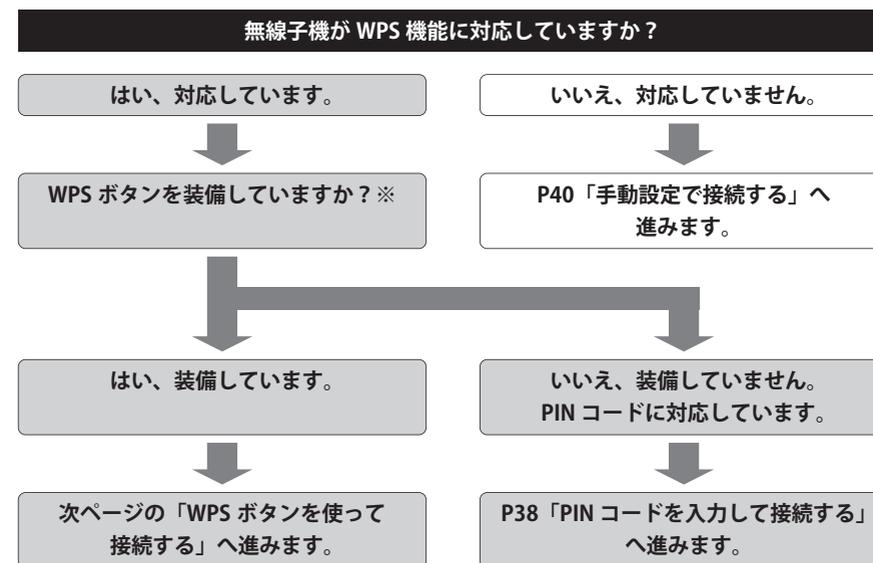
- 本製品の設定のために有線LANで接続していたパソコンを、無線LANで接続するようにする場合は、LANケーブルを取り外し、パソコンの無線LAN機能が使用できるように準備しておいてください。

4 無線LANで接続する

パソコンの無線子機(無線アダプタなど)から本製品を経由してインターネットに接続できるようにします。

はじめにご確認ください

本製品はWPS機能に対応しています。WPS機能に対応する無線子機との組み合わせで簡単に無線LAN機能を設定できます。ボタンを押すだけで設定ができる「プッシュボタン方式」と、用意された数字を入力するだけで設定できる「PINコード方式」の両方に対応しています。WPS機能に対応していない無線子機から本製品に接続するときは、本製品の設定値を無線子機側に設定することで接続することができます。

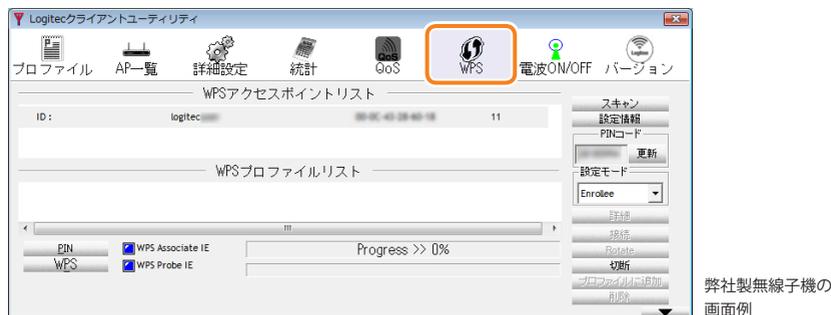


※WPSボタンについて

WPSの「プッシュボタン方式」は、無線子機本体に装備されている「WPSボタン」を押して設定するタイプと、設定ユーティリティ上にある「WPSボタン」アイコンをクリックして設定するタイプがあります。

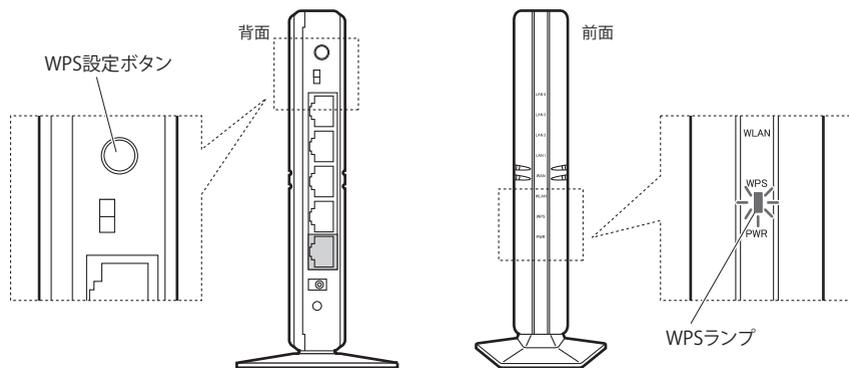
WPSボタンを使って接続する

- 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。
- 無線子機の説明書をお読みになり、無線子機側が「WPS」設定をできるように準備します。



弊社製無線子機の画面例

- 本製品の背面にある「WPS設定ボタン」を1秒～3秒押し、離します。



- 前面にあるWPSランプが赤色に点滅し、WPS対応の無線子機の接続を待つ状態になります。WPSランプの点滅中に接続を完了する必要があります。



- 赤色に点灯しない場合は、再度押してください。
- 接続が完了するか、一定時間(約2分間)がすぎるとWPSランプは消灯します。

- 無線子機側のWPS用の「設定ボタン」を指定された時間だけ押します。
 - 弊社製のWPS対応製品の場合は、本体の「設定ボタン」を1秒以上押し、離します。本体に設定ボタンがないモデルでは、ユーティリティの[WPS]ボタンをクリックします。

- 無線子機側の設定ユーティリティで、本製品に接続できたことを確認します。



弊社製無線アダプタの画面例

- 本製品のWPSランプは消灯します。

- Webブラウザからお好みのホームページに接続し、正常に表示されることを確認します。

ロジテック Web サイト <http://www.logitech.co.jp/>

- これでWPS機能を使った無線子機の設定は完了です。無線子機が他にもある場合は、同じ手順で設定します。

PINコードを入力して接続する

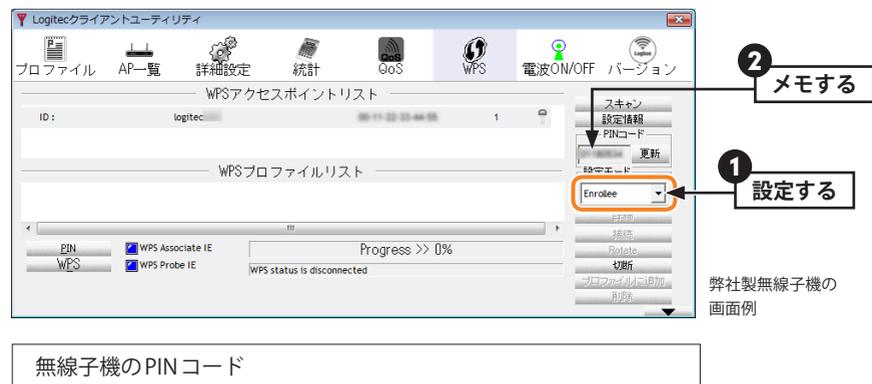
WPS機能のPINコード方式で設定します。無線子機側に設定されたPINコードを本製品に入力して、WPS機能を実行します。



- PIN方式は初期設定では「有効」となっています。「無効」に変更している場合は、P85「WPS機能の設定」をお読みになり、「有効」に設定したうえで、無線子機側のPINコードを入力し、実行してください。
- 無線親機側のPINコードを使用する場合については、無線子機のマニュアルを参照してください。

1 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。

2 無線子機の説明書をお読みになり、無線子機のPINコードの[設定モード]を「Enrollee」に設定し、PINコードをメモします。

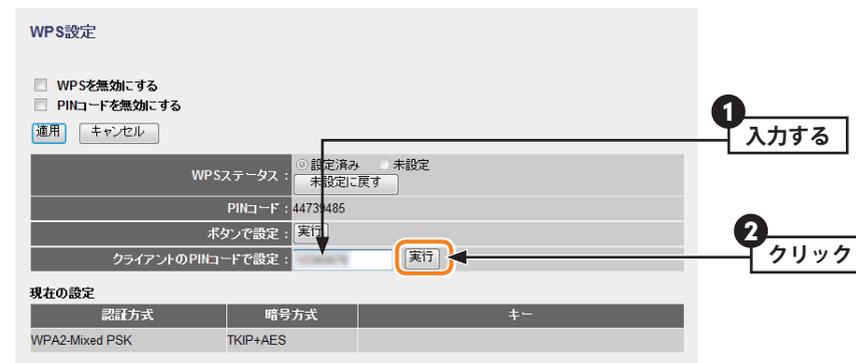


3 本製品の設定ユーティリティを表示します。

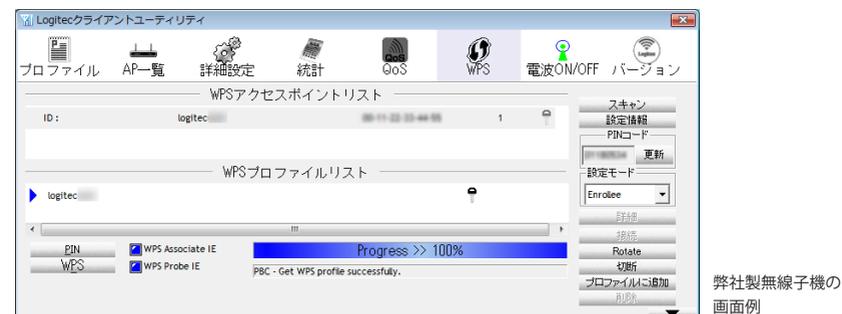
- 設定ユーティリティの表示方法については、P28「設定ユーティリティを表示する」を参照してください。

4 設定ユーティリティの[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、[無線LAN設定] → [WPS]を選択します。

5 [クライアントのPINコードで設定]に、無線子機のPINコードを入力し、[実行]をクリックします。

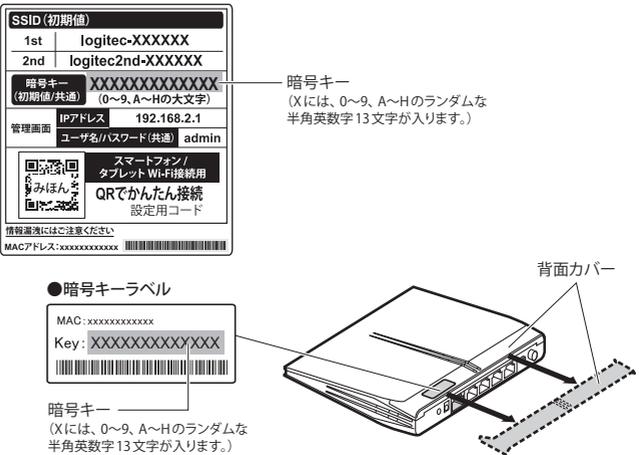


6 設定後、無線子機のユーティリティ画面の表示を見たり、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。



手動設定で接続する

WPS機能を持たない無線子機の場合は、無線子機側の設定ツールを使って、必要な設定を手動でおこないます。本製品の初期値の設定は以下の通りです。無線子機の説明書と、次ページからの作業の流れを参考にして、本製品の設定値を無線子機側に設定してください。

項目	本製品の設定値(初期値)	
SSID	logitec-XXXXXX ※ XXXXXXには、0~9、a~fのランダムな半角英数字が組み合わされて表示されます。	
認証方式	WPA プレシエードキー	無線子機側は「WPA2-PSK」を選択します。
暗号化方式	AES	無線子機側は「AES」を指定します。
WPAユニキャスト暗号スイート	WPA2-PSK (AES)	
共有キーフォーマット	パスフレーズ	
暗号キー	<p>本製品に付属の設定情報シール、または本製品の背面カバーを外したときに見える暗号キーラベルをご覧ください。使用されている文字は半角英数字の大文字です。</p> <p>●設定情報シール</p>  <p>暗号キー (Xには、0~9、A~Hのランダムな半角英数字13文字が入ります。)</p> <p>●暗号キーラベル</p> <p>MAC: xxxxxxxxxxxx Key: XXXXXXXXXXXXX</p> <p>暗号キー (Xには、0~9、A~Hのランダムな半角英数字13文字が入ります。)</p> <p>KEY記入欄</p> <input type="text"/>	



上記の本製品の初期値にあわせ、設定情報シール(または背面カバーを外したときに見える暗号キーラベル)上の暗号キーを利用する場合は、本製品の設定ユーティリティを表示せずに、無線子機側の設定をおこなうだけで本製品に接続することができます。

- 1 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。
- 2 無線子機の設定ユーティリティを起動します。
- 3 設定ユーティリティのリストのSSIDに「logitec-XXXXXX」と表示された場合は選択します。
 - XXXXXXには、0~9、a~fのランダムな半角英数字が組み合わされて表示されます。
 - SSIDを自動的に検出できない場合は、手動で無線子機の設定ユーティリティにある「SSID」に「logitec-XXXXXX」と半角英数字で入力します。
- 4 本製品はセキュリティ機能として暗号化機能(WPA2-PSK/AES/パスフレーズ13文字)があらかじめ設定済みです。無線子機の設定ユーティリティにある[暗号化]に関する設定画面を表示します。
- 5 無線子機の説明書をお読みになり、本製品の設定内容を無線子機側に設定します。
- 6 設定後、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。

Chapter 3

.....

詳細設定編

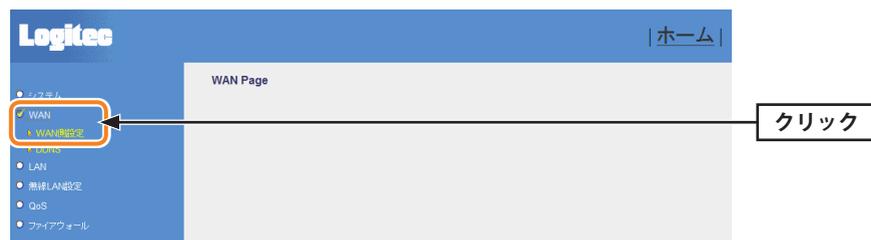
1 インターネット接続設定 (WAN 側設定)

メニューの [WAN] メニューにある各設定項目の設定方法について説明します。

WAN インターフェースの設定

本製品の WAN (インターネット) 側の設定をします。[WAN タイプ] で、DHCP クライアント・固定 IP・PPPoE・PPPoE2 のいずれを選択するかで、設定画面が異なります。

- 1 [ホーム] で [詳細設定 (上級者向け)] を選択し、左のメニューリストから [WAN] → [WAN 側設定] を選択します。



- [WAN インターフェース設定] 画面が表示されます。

- 2 [WAN タイプ] で接続方法を選択します。



- 3 プロバイダから指定されたユーザー名など必要な情報の入力とオプションなどを設定します。設定が終われば [適用] をクリックし、手順 4 へ進みます。

◆「DHCP クライアント」を選択した場合

WAN インターフェース設定

WANタイプ: DHCPクライアント

ホスト名: _____

MTU値: 1492 (1400-1492 bytes)

DNSサーバのアドレスを自動的に取得する

次のDNSサーバを使用する

DNS 1: _____

DNS 2: _____

MACアドレス入力: 000000000000

デフォルトゲートウェイ: _____

有効 uPnP:

IPv6ブリッジ:

[適用] [キャンセル]

ホスト名	必要に応じて自由にホスト名を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1400~1492) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1492)
DNSサーバのアドレスを自動的に取得する	プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。
次のDNSサーバを使用する	プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。
MACアドレス入力	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなケーブルモデムインターネット接続サービスで使用します。
デフォルトゲートウェイ	プロバイダから指定されたDNSサーバのデフォルトゲートウェイを入力します。
有効uPnP	UPnP (Universal Plug and Play) 機能の有効/無効を設定します。UPnPを有効にすると、UPnP対応OSでUPnP対応ネットワーク機器を使用した場合に、自動的にLAN内の装置を検出して、正常に認識できるようにします。(初期値: 無効)
IPv6ブリッジ	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。(初期値: 有効)

◆「固定IP」を選択した場合

WANインターフェース設定

WANタイプ	: 固定IP
IPアドレス	: 172.1.1.1
サブネットマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 172.1.1.254
MTU値	: 1500 (1400-1500 bytes)
DNS 1	:
DNS 2	:
MACアドレス入力	: 000000000000
有効 uPNP	: <input type="checkbox"/>
IPv6ブリッジ	: <input checked="" type="checkbox"/>

通用 キャンセル

IP アドレス	プロバイダから提供された情報を入力します。
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
MTU 値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1400~1500) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1500)
DNS1	プロバイダからDNSアドレスの指示が1個しかない場合は、こちらにだけ入力します。
DNS2	プロバイダからDNSアドレスの指示が2個ある場合は、こちらにセカンダリのDNSアドレスを入力します。
MAC アドレス入力	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなケーブルテレビインターネット接続サービスで使います。
有効 uPNP	UPnP (Universal Plug and Play) 機能の有効/無効を設定します。UPnPを有効にすると、UPnP対応OSでUPnP対応ネットワーク機器を使用した場合に、自動的にLAN内の装置を検出して、正常に認識できるようにします。(初期値: 無効)
IPv6 ブリッジ	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。(初期値: 有効)

◆「PPPoE」を選択した場合

WANインターフェース設定

WANタイプ	: PPPoE
ユーザー名	: user@log-net.or.jp
パスワード	:
サービス名(AC)	:
MTU値	: 1454 (1360-1492 bytes)

DNSサーバのアドレスを自動的に取得する
 次のDNSサーバを使用する

DNS 1	: 000.000.00.00
DNS 2	: 000.000.00.00
MACアドレス入力	: 000000000000
有効 uPNP	: <input type="checkbox"/>
IPv6ブリッジ	: <input checked="" type="checkbox"/>
PPPoEのパススルーを有効にする	: <input type="checkbox"/>

通用 キャンセル

ユーザー名	プロバイダより提供されたユーザー名を入力します。ユーザーIDに「@」がある場合、ユーザー名のあとに、「@」とご契約のプロバイダの識別子を入力する必要があります。 (例) userID123 @ logitec.ent ユーザー名 プロバイダ識別子
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
サービス名(AC)	必要に応じて自由にプロバイダ名などの名称を入力できます。
MTU 値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1360~1492) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)
DNSサーバのアドレスを自動的に取得する	プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。
次のDNSサーバを使用する	プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。
MACアドレス入力	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなケーブルテレビインターネット接続サービスで使います。
有効 uPNP	UPnP (Universal Plug and Play) 機能の有効/無効を設定します。UPnPを有効にすると、UPnP対応OSでUPnP対応ネットワーク機器を使用した場合に、自動的にLAN内の装置を検出して、正常に認識できるようにします。(初期値: 無効)
IPv6 ブリッジ	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。(初期値: 有効)

PPPoEのパススルーを有効にする	有効にすると、ルータを経由して複数のパソコンがPPPoE接続でインターネットを楽しめるのと同時に、特定のパソコンから別のPPPoE接続で、フレッツスクエアのようなコンテンツを楽しむことができます。(初期値:無効) ※複数のPPPoEセッションを利用して接続するサービスをプロバイダと契約している必要があります。
-------------------	--

◆「PPPoE2」を選択した場合

WANインターフェース設定

WANタイプ: PPPoE2

ユーザー名: logitecuser@logitec.net

パスワード: ●●●●●●●●

サービス名(AC):

MTU値: 1454 (1360-1492 bytes)

PPPoE 2

ユーザー名: guest@nets

パスワード: ●●●●

サービス名(AC):

MTU値: 1454 (1360-1492 bytes)

DNSサーバのアドレスを自動的に取得する
 次のDNSサーバを使用する

DNS 1:

DNS 2:

MACアドレス入力: 000000000000

有効 uPnP:

IPv6ブリッジ:

PPPoEのパススルーを有効にする:

適用 キャンセル

ユーザー名	プロバイダより提供されたユーザー名を入力します。 ユーザーIDに「@」がある場合、ユーザー名のあとに、「@」とご契約のプロバイダの識別子を入力する必要があります。 (例) userID123 @ logitec.ent ユーザー名 プロバイダ識別子
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
サービス名(AC)	必要に応じて自由にプロバイダ名などの名称を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値(単位はバイト)の値(1360~1492)を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)
PPPoE2	2つ目のアカウントを登録します。1つ目のアカウントと同様に各項目を設定します。
DNSサーバのアドレスを自動的に取得する	プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。
次のDNSサーバを使用する	プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。 DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。

MACアドレス入力	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなケーブルテレビインターネット接続サービスで使います。
有効 uPnP	UPnP (Universal Plug and Play) 機能の有効/無効を設定します。UPnPを有効にすると、UPnP対応OSでUPnP対応ネットワーク機器を使用した場合に、自動的にLAN内の装置を検出して、正常に認識できるようにします。(初期値:無効)
IPv6ブリッジ	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。(初期値:有効)
PPPoEのパススルーを有効にする	有効にすると、ルータを経由して複数のパソコンがPPPoE接続でインターネットを楽しめるのと同時に、特定のパソコンから別のPPPoE接続で、フレッツスクエアのようなコンテンツを楽しむことができます。(初期値:無効) ※複数のPPPoEセッションを利用して接続するサービスをプロバイダと契約している必要があります。

4 「設定変更を反映します。」と表示されます。

設定変更を反映します。

設定変更を反映するために、装置を再起動する必要があります。引き続き、他の設定を行う場合は、【戻る】ボタンをクリックしてください。すべての設定を反映し、装置を再起動するには、【更新】ボタンをクリックしてください。

更新 戻る

- 他の設定を続ける場合→ **戻る** をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→ **更新** をクリックし、手順 **5** へ進みます。

5 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。

設定を反映させています。画面が切り替わるまで、しばらくお待ちください。

31秒以上たっても画面が切り替わらない場合、ACアダプタを抜き挿しし、電源を入れ直してください。

設定を反映中。。。

DDNS (ダイナミック DNS) の設定

DDNS (ダイナミック DNS) を利用すると、WAN 側が固定 IP アドレスでなくても、ホスト名を使ってサーバなどを利用できるようになります。この機能を利用するには、ダイナミック DNS のサービス提供者に登録する必要があります。ダイナミック DNS はサービスリストに表示されるサービスでご利用いただけます。



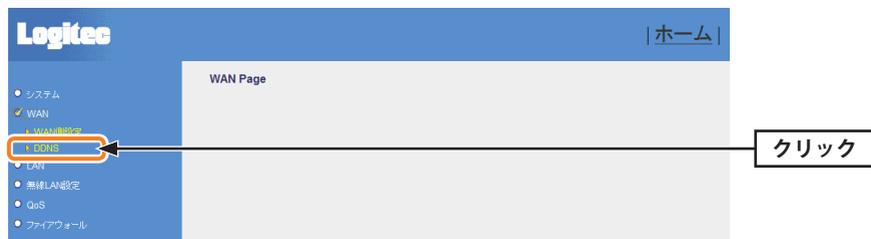
●あらかじめDDNSサービスに登録しておいてください

DDNS サイトにアクセスしてユーザー登録し、ドメイン名やアカウントなどを取得しておいてください。

●DDNSサービスを利用するにあたって

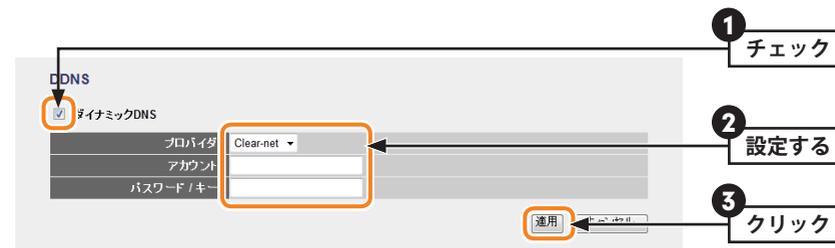
- DDNS サービスへの登録については、弊社のサポート対象外となります。登録に関しては、一切責任を負いかねます。
- Clear-net (クリアネットサービス) とは、対象の弊社製品をユーザ登録してご利用いただいている方に無償で提供されるダイナミック DNS サービスです。クリアネットサービスへの登録については、弊社ホームページで詳細をご確認のうえ、ご利用ください。
- DDNS サービスによっては、定期的に更新をしないと登録が削除されてしまうことがあります。登録の更新は、本製品がインターネットに接続されているときに自動的におこなわれるほか、手動で更新する場合もあります。更新期間などの詳細はご利用になる DDNS サイトをご覧ください。

- 1 [ホーム] で [詳細設定 (上級者向け)] を選択し、左のメニューリストから [WAN] → [DDNS] を選択します。



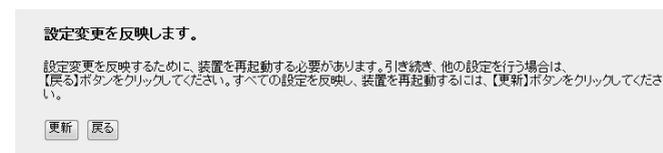
- <DDNS> 画面が表示されます。

- 2 「ダイナミック DNS」をチェックし、必要な情報を設定します。設定が終われば [適用] をクリックします。



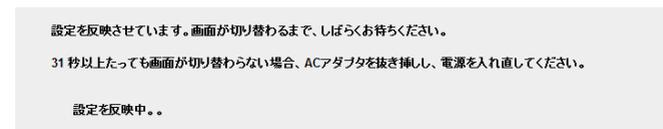
ダイナミック DNS	チェックすると、DDNS の設定が有効になります。
プロバイダ	リストから登録したサービスを選択します。
ドメイン名	登録したドメイン名を入力します。
アカウント	登録したアカウントを入力します。DDNS サービスによってはアカウントが Eメールアドレスの場合があります。
パスワード/キー	設定したパスワードまたはキーを入力します。

- 3 「設定変更を反映します。」と表示されます。



- 他の設定を続ける場合→ [戻る] をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→ [更新] をクリックし、手順 4 へ進みます。

- 4 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。



2 LAN側の設定をする

本製品のLAN（ローカルネットワーク）側のIPアドレス情報、DHCPサーバに関する設定をします。

LAN側設定画面

本製品のLAN（ローカルネットワーク）側のIPアドレス情報、DHCPサーバに関する設定をします。



[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択します。

LAN側設定

DHCP:	有効	
IPアドレス:	192.168.2.1	
サブネットマスク:	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ:	0.0.0.0	
DHCPクライアントIP範囲:	192.168.2.100	192.168.2.200 <input type="button" value="クライアントの表示"/>
固定DHCP:	<input type="button" value="固定DHCP設定"/>	



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は を、変更した内容をすぐに有効にする場合は をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

DHCP (Routerモード時のみ)	DHCPサーバ機能を利用する場合は[有効]を選択します。IPアドレスを固定にする場合は[無効]を選択します。
IPアドレス	本製品のLAN側のIPアドレスを入力します。初期値は「192.168.2.1」です。
サブネットマスク	使用中のネットワークのサブネットマスクを入力します。初期値は「255.255.255.0」です。
デフォルトゲートウェイ	必要に応じて、デフォルトゲートウェイを設定できます。

DHCPクライアントIP範囲 (Routerモード時のみ)	DHCPサーバ機能を利用する場合、DHCPサーバがクライアントに自動的に割り付けるIPアドレスの範囲を指定します。開始アドレス～終了アドレスの範囲でクライアントにIPアドレスが自動的に割り当てられます。 <input type="button" value="クライアントの表示"/> をクリックすると、接続中のDHCPクライアントのリストが別ウィンドウで表示されます。
固定DHCP (Routerモード時のみ)	<input type="button" value="固定DHCP設定"/> をクリックすることで、クライアントのMACアドレスと指定したいIPアドレスを関連付けて登録することができます。設定方法についてはP54「 固定DHCP設定画面 」をお読みください。

固定 DHCP 設定 画面

DHCPサーバ機能を有効にしている場合、クライアントには自動的にIPアドレスが割り当てられます。しかし、クライアントのネットワーク機器によっては、特定のIPアドレスを割り当てたい場合があります。クライアントのMACアドレスと指定したいIPアドレスを関連付けて登録することができます。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択し、[固定DHCP設定]をクリックします。

固定DHCP設定

固定DHCPを有効にする

IPアドレス:

MACアドレス:

メモ:

適用 キャンセル

固定DHCPリスト

IPアドレス	MACアドレス	メモ	選択
192.168.2.131	12-34-56-78-90-12	sales-team01	<input type="checkbox"/>
192.168.2.132	12-34-56-78-90-13	sales-team02	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **[適用]** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **[戻る]** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **[更新]** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●入力・設定画面の内容

固定DHCPを有効にする	この項目をチェックしている場合に、固定DHCPリストの内容が有効になります。チェックしていない場合は、リストに登録されていてもIPアドレスは固定されません。
IPアドレス	クライアントに割り当てるIPアドレスを入力します。
MACアドレス	IPアドレスを固定するクライアントのMACアドレスを入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●固定DHCPリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

適用	リストに新たにIPアドレスを固定するクライアントを追加します。
選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

固定 DHCP の設定方法

固定DHCP設定

固定DHCPを有効にする

IPアドレス: 192.168.2.131

MACアドレス: 123456789012

メモ: sales-team01

適用 キャンセル

固定DHCPリスト

IPアドレス	MACアドレス	メモ	選択
192.168.2.131	12-34-56-78-90-12	sales-team01	<input checked="" type="checkbox"/>
192.168.2.132	12-34-56-78-90-13	sales-team02	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル

- 1 [固定DHCPを有効にする]をチェックします。
- 2 クライアントに割り当てたいIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 123456789012
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 **[適用]** をクリックすると「設定変更を反映します。」と表示されます。
- 6 登録するクライアントを追加する場合は **[戻る]** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **[更新]** をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

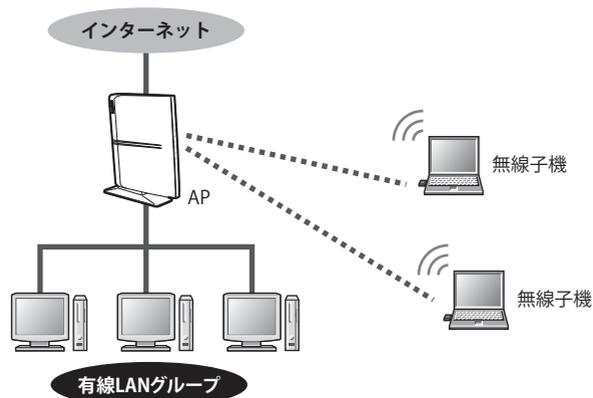
3 無線LANの設定をする

本製品の無線LAN機能を設定します。

本製品で使用可能な通信モードについて

Routerモード

本製品の基本モードです。無線LAN機能を「無線LANアクセスポイント」として使用します。無線子機と通信できます。各項目の説明はP60「無線LANの基本設定」をお読みください。



WDSモード

本製品をブリッジ接続します。複数の本製品で相互に通信できます。ただし、無線子機と接続するAPモード機能は利用できません。設定の流れはP64「WDSモードで使う」をお読みください。ブリッジ接続する無線APの登録台数は、2台までを推奨します。

図1

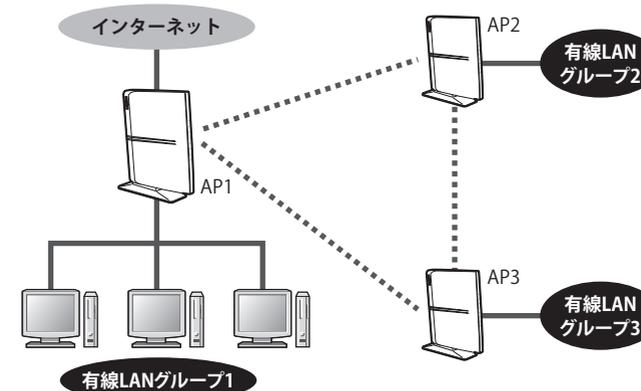
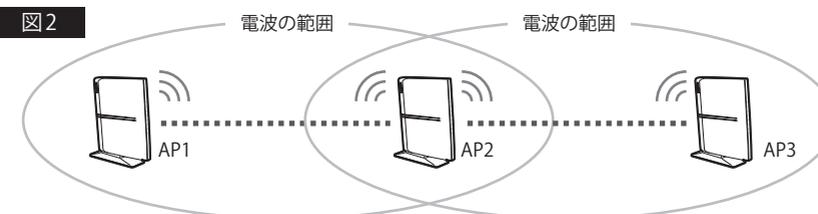


図1のようにAP1～AP3は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれの無線AP同士が直接通信することができます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できない距離にある場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継して通信できます。

※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループを省略しています。

図2



Router + WDSモード

本製品を複数台と接続できるブリッジモードとして使用可能なうえ、無線子機とも通信できます。設定の流れはP71「Router + WDSモードで使う」をお読みください。ブリッジ接続する無線APの登録台数は、2台までを推奨します。



注意

このモードは、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。

図1

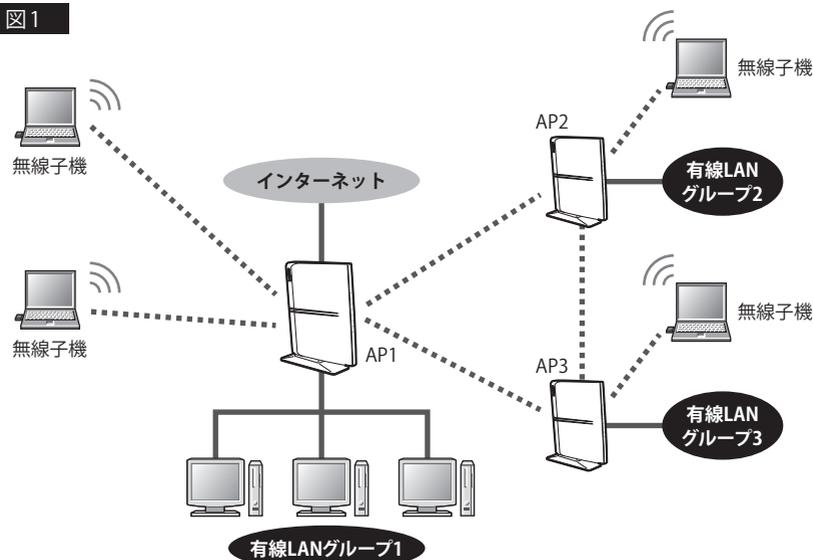
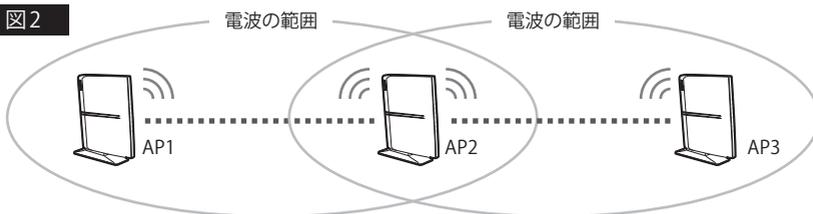


図1のようにAP1～AP3は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれのAP同士が直接通信することができます。さらに無線APは、有線クライアントだけでなく、無線子機とも無線LANで接続することができます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できる距離にない場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継して通信することができます。

※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループ等を省略しています。

図2



WDSモード/Router + WDSモードでの設定の注意点



ここでは、本製品をルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。

●インターネットへの接続

ブリッジ接続上の複数の無線APで、インターネットに接続するのは、いずれか1台としてください。なお、インターネットに接続する1台については、ルータ機能を有効にしておく必要があります。

●各無線APのIPアドレスの割り当て

インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「サーバ」として利用するように設定し、その他の無線APはDHCP機能を「無効」と設定したうえで、同一ネットワーク上の他の機器とIPアドレスが重ならないように、手動でIPアドレスを割り当ててください。

●設定用パソコンのIPアドレス

設定中に無線APと設定用パソコンを1対1で接続している場合などは、DHCP機能を「無効」に設定したあとも、設定用パソコンが設定ユーティリティに接続できるように、ご使用のネットワーク環境にあわせてIPアドレスを手動で割り当てておくことをお勧めします。パソコンのIPアドレスがDHCPサーバから自動取得になっている場合、無線APのIPアドレスを変更したあと、再接続できなくなることがあります。

●MACアドレスの設定

A、B、Cの3台の無線APでWDS機能を使用する場合、無線AP「A」には、BとCのMACアドレスを、無線AP「B」には、AとCのMACアドレスというように、お互いに接続相手となる無線APのMACアドレスを登録してください。MACアドレスは、[ホーム]で[機器のステータス]を選択し、左メニューから[ステータス]→[機器のステータス]を選択して表示される<機器のステータス>画面の[LAN側設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスを入力してください。

●ネットワークの設定

WDS機能により、無線APに接続された有線クライアント同士がデータのやり取りをするには、別途、ネットワーク設定が必要です。無線AP同士が接続できても、異なるネットワークグループであれば、クライアント同士が接続することはできません。

●WDSモードのセキュリティ設定

すべての無線APのWDSのセキュリティ設定内容を同一にしておく必要があります。

●Router + WDSモードのセキュリティ設定

すべての無線APのWDSのセキュリティ設定内容を同一にしておく必要があります。さらに、APモードでのセキュリティ設定([詳細設定(上級者向け)]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]の内容)とも同一にする必要があります。すべてのセキュリティ設定が同一になるように注意して設定してください。

●WPS機能

Router + WDSモードの場合は、WPS機能は使用できません。無線クライアントとのセキュリティ設定は手動でおこなってください。

無線LANの基本設定

無線LANの基本的な機能について設定します。無線LAN機能をどの通信モードで使用するかで設定内容が異なります。ここでは基本となる「Routerモード」について説明しています。他の通信モードについては、それぞれの説明ページをお読みください。

- WDSモードの場合→P64「WDSモードで使う」
- Router + WDSモードの場合→P71「Router + WDSモードで使う」

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[基本設定]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

無線を無効にする		無線LANの設定をすべて無効にする場合にチェックします。チェックすると、無線LAN機能を使用できなくなります。 (初期値：オフ=無線LANが有効)
帯域	2.4 GHz (B + G + N)	初期値です。IEEE802.11n/11g/11bの3規格を使用します。
	2.4 GHz (B)	IEEE802.11b規格だけを使用します。
	2.4 GHz (G)	IEEE802.11g規格だけを使用します。
	2.4 GHz (N)	IEEE802.11n規格だけを使用します。
	2.4 GHz (B + G)	IEEE802.11g/11bの2規格を使用します。
帯域	2.4 GHz (G + N)	IEEE802.11g/11nの2規格を使用します。
	モード	使用する通信モードを選択します。無線子機と通信する基本的な無線LAN機能を利用する場合は、「Routerモード」を選択します。その他のモードについては、P56「本製品で使用可能な通信モードについて」をお読みください。
マルチSSID		本製品は、4つのSSIDを同時に使用することができます。SSIDごとにセキュリティレベルを変更することもできます。「logitech2nd-XXXXXX」が初期値として登録されています。設定方法は、P63「マルチSSIDの設定」をお読みください。
SSID		無線LANで使用するSSIDを入力します。初期値は「logitech-XXXXXX」が登録されています。
チャンネル幅		11n規格でのチャンネル幅を設定します。11n対応の無線クライアントと接続する場合、「自動(20MHz/40MHz)」に設定することで伝送速度を速くすることができます。ただし、他の無線LANとの干渉などによっては、伝送速度が変わらない場合もあります。(初期値：自動(20MHz/40MHz))
チャンネル		使用するチャンネルを選択します。Autoまたは1~13chの中から選択します。チャンネルの異なる複数の無線機器を使用する場合は5チャンネル以上離してください。Autoを選択すると、自動でチャンネルが設定されます。(例) 1ch/6ch/11ch
SSIDステルス機能		「無効」の場合は、無線子機側の設定ユーティリティなどから本製品に設定したSSIDを確認することができます。「有効」にした場合は、無線子機側の設定ユーティリティなどで、本製品のSSIDを表示できなくなります。不正アクセスを防ぐためや、SSIDを第三者に見せたくない場合などに「有効」にします。(初期値：無効)
WMM		WMM (Wi-Fi Multimedia) により安定したストリーミング通信をするための帯域を優先的に確保するかを設定します。帯域で「2.4 GHz (B)」、「2.4 GHz (G)」、「2.4 GHz (B + G)」を選択している場合のみ設定できます。(初期値：有効)
データレート		11n/11g/11b規格の通信における伝送速度を設定します。「自動」に設定しておくと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。(初期値：自動)
関連クライアント		通信中のクライアントPCを表示する をクリックすると、無線クライアント(無線子機)のリストが別ウィンドウで表示されます。



マルチSSIDのlogitec-XXXXXXとlogitec2nd-XXXXXX

WPS機能を使ったパソコンまたはゲーム機PS3用のセキュリティ設定を「WPA2-PSK」、ゲーム機PSP、Wii、DS用のセキュリティには「WEP」が利用できるように2つのSSIDが用意されています。これにより、パソコンとWii、PSPとDSといった組み合わせで使用する場合に、セキュリティレベルを使い分けることができます。

logitec-XXXXXX ^{※1}	パソコンまたはゲーム機PS3用のSSIDです。セキュリティ設定の初期値は、WPA2-PSK/AES/暗号キー13文字になっています(→P40「 手動設定で接続する 」参照)。
logitec2nd-XXXXXX ^{※1、※2}	ゲーム機PSP、Wii、DS用のSSIDです。セキュリティ設定が初期値で「WEP」になっています。

※1：XXXXXXには、0～9、a～fのランダムな半角英数字が組み合わされて表示されます。

※2：このSSIDに対してWPS機能は使えません。

マルチSSIDの設定

本製品にはあらかじめ2個のSSIDが用意されていますが、このあとに説明する手順で最大4個のSSIDを登録することができます。



注意

3個あるいは4個のSSIDを同時に使用する場合、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。通常は、2個までの使用を推奨します。



〈マルチSSID〉画面では3個のSSIDを登録できます。基本となる1個目のSSIDは、〈基本設定〉画面での登録になります。

マルチSSID設定

No.	有効	SSID	データレート	SSIDステルス機能	WMM	通信中のクライアント
2nd SSID	<input checked="" type="checkbox"/>	logitec2nd-XXXX	自動	無効	有効	表示
3rd SSID	<input type="checkbox"/>		自動	無効	有効	表示
4nd SSID	<input type="checkbox"/>		自動	無効	有効	表示

[実行](#) [キャンセル](#)

- 1 「無線LAN設定」の〈基本設定〉画面を表示します。
- 2 [マルチSSID](#) をクリックします。
- 3 使用するSSID番号の「有効」を選択します。
- 4 [SSID]に任意の半角英数字を入力します。
- 5 必要に応じて高度な設定をします(→P61「[設定画面の内容](#)」参照)。
- 6 設定が終われば[実行](#)をクリックします。
- 7 「設定変更を反映します。」と表示されますので[更新](#)をクリックします。
・しばらくするとホーム画面に戻ります。



通信中のクライアント

[表示](#) をクリックすると、ここで設定したSSIDで接続している無線クライアント(無線子機)をリストで表示します。

WDSモードで使う

本製品をブリッジ接続します。複数の本製品と相互に通信できます。ただし、無線子機と接続するAPモード機能は利用できません。ブリッジ接続する無線APの相手台数は、2台までを推奨します。以下の手順で設定してください。

なお、ここでは本製品を、ルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。

- 1 設定を始める前に、RT/APモード切り替えスイッチが「RT（ルータ）」側になっていることを確認します。

次に、ブリッジ接続の相手となる無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。

機器のステータス

システム

Uptime	: 0day:1h:27m:36s
ファームウェア	: v0.7.0
ファームウェア Build Time	: Fri Mar 15 19:48:58 CST 2013

無線設定状況

モード	: AP
帯域	: 2.4 GHz (B+G+N)
SSID	: logitec-XXXXXX
チャンネル	: 11
暗号化	: WPA2
BSSID	: [隠された文字列]
関連クライアント数	: 0

SSID1 設定状況

帯域	: 2.4 GHz (B+G+N)
SSID	: logitec2nd-XXXXXX
暗号化	: WEP 128bits
BSSID	: [隠された文字列]
関連クライアント数	: 0

LAN側設定

IPアドレス	: 192.168.2.1
サブネットマスク	: 255.255.255.0
DHCP	: Enabled
MACアドレス	: [隠された文字列]

WAN側設定

IPアドレス取得方法	: DHCP未接続
IPアドレス	: 0.0.0.0
サブネットマスク	: 0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	: 0.0.0.0
MACアドレス	: [隠された文字列]

- 1 [ホーム]で[機器のステータス]を選択し、左のメニューリストから[ステータス]→[機器のステータス]を選択します。
- 2 (機器のステータス)画面の[LAN側設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスをメモしておきます。

- 2 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[基本設定]を選択し、(基本設定)画面を表示します。

基本設定

無線を無効にする

帯域	: 2.4 GHz (B+G+N)
モード	: WDS
SSID	: logitec-XXXXXX
チャンネル幅	: 自動(20MHz/40MHz)
チャンネル	: Auto
SSIDステルス機能	: 無効
WMM	: 有効
データレート	: 自動
関連クライアント	: 通信中のクライアントPCを表示する

適用 キャンセル

- 1 [帯域]で、使用する帯域を選択します。
- 2 [モード]で、[WDS]を選択します。
- 3 [チャンネル]で、1~13の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
- 4 必要に応じて、高度な設定をします(P61の一覧表参照)。
- 5 [適用]をクリックします。

- 3 「設定変更を反映します。」と表示されます。

設定変更を反映します。

設定変更を反映するために、装置を再起動する必要があります。引き続き、他の設定を行う場合は、【戻る】ボタンをクリックしてください。すべての設定を反映し、装置を再起動するには、【更新】ボタンをクリックしてください。

更新 戻る

- 他の設定を続ける場合→[戻る]をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→[更新]をクリックし、手順 5 へ進みます。

- 4** 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。

設定を反映させています。画面が切り替わるまで、しばらくお待ちください。

31秒以上たっても画面が切り替わらない場合、ACアダプタを抜き挿しし、電源を入れ直してください。

設定を反映中。。

- 5** [WDS設定]画面で以下の内容を設定します。

WDS設定

WDSを有効にする

MACアドレス	データレート	メモ
	自動	

セキュリティ設定 ステータス表示 **適用** キャンセル

現在のWDSアクセスポイントリスト:

MACアドレス	Txレート(Mbps)	メモ	選択
00:11:22:33:44:55	Auto	AP2	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル

- [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[WDS]を選択します。
- [WDS設定]画面が表示されますので、[WDSを有効にする]をチェックします。
- [MACアドレス]に、あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
- [データレート]で伝送速度を設定します。「自動」に設定しておくこと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- 適用** をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので **更新** をクリックします。
- しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。
- 複数の無線APとブリッジ接続する場合は、**1**～**7**の操作をくり返します。
※適度な通信速度を確保するには、ブリッジ接続の相手は2台までを推奨します。
- このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **6** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **7** へ進みます。

- 6** ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、**セキュリティ設定** をクリックします。

WDSセキュリティ設定

暗号化:	WPA (TKIP)
WEPキーフォーマット:	ASCII (13 characters)
WEPキー:	*****
共有キーフォーマット:	パスフレーズ
共有キー:	logitec201108aabbcc

適用 キャンセル

- 〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
 - セキュリティ設定の項目については、P87「4. セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参照してください。
- すべての設定が終われば、**適用** をクリックします。
- 「設定変更を反映します。」と表示されますので **更新** をクリックします。
 - しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。

- 7** ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ設定が異なる場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 **8** へ進みます。

- [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]を選択します。
- [セキュリティ設定]画面が表示されますので、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ機能を設定します。
- すべての設定が終われば、**適用**をクリックします。
- 「設定変更を反映します。」と表示されますので**更新**をクリックします。
 - しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。

- 8** DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。



複数の無線APでブリッジ接続する場合

DHCP機能を使用する無線APは1台だけにします。インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「有効」に設定します。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」に設定してください。DHCP機能を「無効」にして使用する無線APについては、手動でIPアドレスを割り当ててください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

- 9** DHCP機能を「有効」で使用する1台を除き、DHCP機能を「無効」に変更します。



●DHCP機能を「無効」にできない場合

出荷時によっては、DHCP機能を「無効」にできない場合があります。このようなときは、ロジテック ホームページより、最新のファームウェアをダウンロードしたのち、ファームウェアのアップデート(→P112)を実行してください。

●[DHCP]を無効にした無線APに接続する無線子機(無線クライアント)について

DHCPサーバ機能が無効になります。各無線子機には、手動で適切なIPアドレスを割り当ててください。

●[DHCP]を無効にする無線AP自身のIPアドレスについて

本製品のIPアドレスは、「192.168.2.1」となっています。DHCPを無効にした無線APは[LAN側設定]の[IPアドレス]を、他の機器と重ならないように変更してください。

- [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択します。
- [LAN側設定]画面が表示されますので、[DHCP]を[無効]にします。
- 適用**をクリックします。
- 「設定変更を反映します。」と表示されますので**更新**をクリックします。
 - しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。

10 Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。



設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当てなおしてください。

11 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。

12 これでWDSモードの設定は終わりです。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。

- すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。

Router + WDSモードで使う

複数の無線AP同士をブリッジ接続で使用可能なうえ、各無線APが無線クライアントとも通信できます。ブリッジ接続する無線APの相手台数は、2台までを推奨します。以下の手順で設定してください。なお、ここでは本製品を、ルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。



Router + WDSモードでは、無線クライアントとの接続にWPS機能は使用できません。

注意

1 設定を始める前に、RT/APモード切り替えスイッチが「RT(ルータ)」側になっていることを確認します。

次に、ブリッジ接続の相手となる無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。

機器のステータス	
システム	
Uptime :	0day:1h:27m:36s
ファームウェア :	v0.7.0
ファームウェア Build Time :	Fri Mar 15 19:48:58 CST 2013
無線設定状況	
モード :	AP
帯域 :	2.4 GHz (B+G+N)
SSID :	logitec-XXXXXX
チャンネル :	11
暗号化 :	WPA2
BSSID :	XXXXXXXXXX
関連クライアント数 :	0
SSID1 設定状況	
帯域 :	2.4 GHz (B+G+N)
SSID :	logitec2nd-XXXXXX
暗号化 :	WEP 128bits
BSSID :	XXXXXXXXXX
関連クライアント数 :	0
LAN側設定	
IPアドレス :	192.168.2.1
サブネットマスク :	255.255.255.0
DHCP :	Enabled
MACアドレス :	XXXXXXXXXX
WAN側設定	
IPアドレス取得方法 :	DHCP未接続
IPアドレス :	0.0.0.0
サブネットマスク :	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ :	0.0.0.0
MACアドレス :	XXXXXXXXXX

1 [ホーム]で[機器のステータス]を選択し、左のメニューリストから[ステータス]→[機器のステータス]を選択します。

- ② 〈機器のステータス〉画面の[LAN側設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスをメモしておきます。

- 2 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[基本設定]を選択し、〈基本設定〉画面を表示します。

基本設定

無線を無効にする

帯域	2.4 GHz (B+G+N)
モード	Router+WDS <input type="button" value="マルチSSID"/>
SSID	logitec-XXXXXX
チャンネル幅	自動(20MHz/40MHz)
チャンネル	Auto
SSIDステルス機能	無効
WMM	有効
データレート	自動
関連クライアント	<input type="button" value="通信中のクライアントPCを表示する"/>

- [無線帯域]で、使用する帯域を選択します。
- [モード]で、[Router + WDS]を選択します。
- [チャンネル幅]で、[自動(20MHz + 40MHz)]を選択します。
- [チャンネル]で、1~13の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
- 必要に応じて、高度な設定をします(P61の一覧表参照)。
- をクリックします。

- 3 「設定変更を反映します。」と表示されます。

設定変更を反映します。

設定変更を反映するために、装置を再起動する必要があります。引き続き、他の設定を行う場合は、**【戻る】**ボタンをクリックしてください。すべての設定を反映し、装置を再起動するには、**【更新】**ボタンをクリックしてください。

- 他の設定を続ける場合→ をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→ をクリックし、手順 **5** へ進みます。

- 4 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。

設定を反映させています。画面が切り替わるまで、しばらくお待ちください。

31秒以上たっても画面が切り替わらない場合、ACアダプタを抜き差しし、電源を入れ直してください。

設定を反映中。。

- 5 [WDS設定]画面で以下の内容を設定します。

WDS設定

WDSを有効にする

MACアドレス	データレート	メモ
<input type="text"/>	自動	<input type="text"/>

現在のWDSアクセスポイントリスト:

MACアドレス	Txレート(Mbps)	メモ	選択
00:11:22:33:44:55	Auto	AP2	<input type="checkbox"/>

- [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[WDS]を選択します。
- [WDS設定]画面が表示されますので、[WDSを有効にする]をチェックします。
- [MACアドレス]に、あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
- [データレート]で伝送速度を設定します。「自動」に設定しておく、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので をクリックします。
- しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。
- 複数の無線APとブリッジ接続する場合は、①~⑦の操作をくり返します。
※適度な通信速度を確保するには、ブリッジ接続の相手は2台までを推奨します。
- このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **6** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **7** へ進みます。

- 6** ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、セキュリティ設定をクリックします。

- 1 <WDSセキュリティ設定>画面が表示されますので、各項目を設定します。
 - ・セキュリティ設定の項目については、P87「4. セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参照してください。
- 2 すべての設定が終われば、「適用」をクリックします。
- 3 「設定変更を反映します。」と表示されますので「更新」をクリックします。
 - ・しばらくすると、「ホーム」画面が表示されます。



注意

セキュリティ設定について

本モードでは、ブリッジ接続による無線APのセキュリティ設定と、無線子機⇄無線AP間のセキュリティ設定は同一の設定にする必要があります。ここでの設定と、「無線LAN設定」→「セキュリティ設定」のセキュリティ設定が同一になるようしてください。

- 7** ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ設定が異なる場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 **8** へ進みます。

- 1 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]を選択します。
- 2 <セキュリティ設定>画面が表示されますので、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ機能を設定します。
- 3 すべての設定が終われば、「適用」をクリックします。
- 4 「設定変更を反映します。」と表示されますので「更新」をクリックします。
 - ・しばらくすると、「ホーム」画面が表示されます。

- 8** DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。



複数の無線APでブリッジ接続する場合

DHCP機能を使用する無線APは1台だけにします。インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「有効」に設定します。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」に設定してください。DHCP機能を「無効」にして使用する無線APについては、手動でIPアドレスを割り当ててください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

9 DHCP機能を「有効」で使用する1台を除き、DHCP機能を「無効」に変更します。



●DHCP機能を「無効」にできない場合

出荷時によっては、DHCP機能を「無効」にできない場合があります。このようなときは、ロジテック ホームページより、最新のファームウェアをダウンロードしたのち、ファームウェアのアップデート(→P112)を実行してください。

●[DHCP]を無効にした無線APに接続する無線子機(無線クライアント)について

DHCPサーバ機能が無効になります。各無線子機には、手動で適切なIPアドレスを割り当ててください。

●[DHCP]を無効にする無線AP自身のIPアドレスについて

本製品のIPアドレスは、「192.168.2.1」となっています。DHCPを無効にした無線APは[LAN側設定]の[IPアドレス]を、他の機器と重ならないように変更してください。

LAN側設定

DHCP:	無効	
IPアドレス:	192.168.2.1	
サブネットマスク:	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ:	0.0.0.0	
DHCPクライアントIP範囲:	192.168.2.100 - 192.168.2.200	クライアントの表示
固定DHCP:	固定DHCP設定	

適用 キャンセル

- 1 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択します。
- 2 [LAN側設定]画面が表示されますので、[DHCP]を[無効]にします。
- 3 [適用]をクリックします。
- 4 「設定変更を反映します。」と表示されますので[更新]をクリックします。
 - ・しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。

10 Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。



設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当てなおしてください。

11 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN]→[LAN側設定]を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。

12 これでRouter + WDSモードの設定は終わりです。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。

- ・すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。



無線クライアントの設定

Router + WDSモードでは、各無線APに無線クライアントから接続することができます。ただし、Router + WDSモードでは、「WPS機能」が使用できません。無線APに設定した無線LAN設定をメモして、手動で各無線クライアントの無線LAN設定をしてください。

無線 LAN の詳細設定

無線 LAN の高度なオプション機能を設定できます。これらの設定には無線 LAN に関する十分な知識が必要です。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線 LAN 設定]→[詳細設定(上級者向け)]を選択します。

項目	設定値	範囲
フラグメントしきい値	2346	(256-2346)
RTSしきい値	2347	(0-2347)
ビーコン間隔	100	(20-1024 ms)
プリアンブルタイプ	ロングプリアンブル	ショートプリアンブル
送信パワー	100%	70% 50% 35% 15%



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は「戻る」を、変更した内容をすぐに有効にする場合は「更新」をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●**詳細設定** 各項目の数値に指定可能な範囲がある場合は、数値の右側にカッコで表示しています。

フラグメントしきい値	フラグメントしきい値を設定します。パケットが設定サイズを超えた場合に分割して送信します。(初期値：2346)
RTSしきい値	本製品がRTS(送信要求)信号を送信するパケットサイズを設定します。(初期値：2347)
ビーコン間隔	本製品が送信するビーコンフレームの送信間隔を設定します。(初期値：100)
プリアンブルタイプ	無線通信の同期をとるプリアンブル信号の種類(長さ)を選択します。ショートプリアンブルのほうが伝送速度を速くすることができます。ただし、古いタイプの無線子機を使用する場合は、互換性を確保するために「ロングプリアンブル」を選択します。(初期値：ロングプリアンブル)
送信パワー	電波の出力強度を調整できます。電波が遠くまで飛びすぎる場合に、環境にあわせて強度を設定します。(初期値：100%)

アクセスコントロールの設定(MACアドレスフィルタ)

登録したMACアドレスを持つ無線子機とだけ無線LANで通信できるようにしたり、通信を拒否したりできます。第三者の無線子機からの不正アクセスを防止するのに役立ちます。有線クライアントも含めて制限したい場合は、P102「MACアドレスフィルタの設定」をお読みください。



無線アクセスコントロール機能を「許可」にした場合、WPS機能は使用できません。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線 LAN 設定]→[アクセスコントロール]を選択します。

MACアドレス	コメント	選択
12.34.56.78.90.ab	sales-team01	<input type="checkbox"/>
12.34.56.78.90.cd	sales-team02	<input type="checkbox"/>
12.34.56.78.90.ef	sales-team03	<input type="checkbox"/>



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は「戻る」を、変更した内容をすぐに有効にする場合は「更新」をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●無線アクセスコントロールリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録した無線子機の情報削除する場合にチェックします。

●入力・設定画面の内容

無線アクセス コントロール機能	「無効」…無線アクセスコントロール機能を使用しません。 「許可」…[無線アクセスコントロールリスト]に登録したMACアドレスを持つ無線子機だけが無線LANで接続できます。 「拒否」…[無線アクセスコントロールリスト]に登録したMACアドレスを持つ無線子機との無線LAN接続を拒否します。
MACアドレス	本製品への無線LAN接続を許可または拒否する無線子機のMACアドレスを入力します。
コメント	自由にコメントを入力できます。登録した無線子機を区別するのに便利です。

無線子機の登録方法

無線アクセスコントロール

無線アクセスコントロールリスト:

MACアドレス	コメント	選択
12:34:56:78:90:ab	sales-team01	<input type="checkbox"/>
12:34:56:78:90:cd	sales-team02	<input type="checkbox"/>
12:34:56:78:90:ef	sales-team03	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル

無線アクセスコントロール機能: 許可

MACアドレス	コメント
123456789012	sales-team05

適用 キャンセル

- 1 [無線アクセスコントロール機能]で[許可]または[拒否]を選択します。
- 2 無線子機のMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1234567890gh
- 3 無線子機を区別するための名称など、必要に応じてコメントを入力します。
- 4 [適用]をクリックすると「if ACL allow list turn on; WPS2.0 will be disabled」と表示されますので[OK]をクリックします。
- 5 「設定変更を反映します。」と表示されますので[更新]をクリックします。
・しばらくするとホーム画面に戻ります。
- 6 登録する無線子機が複数ある場合は、①～⑤を繰り返します。

WDS設定画面

WDS機能を使ってブリッジモードで本製品を使用する場合の設定をします。〈基本設定〉画面の「モード」で[WDS]または[Router + WDS]を選択した場合に設定できます。



[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[WDS]を選択します。

WDS設定

WDSを有効にする

MACアドレス	データレート	メモ
	自動	

セキュリティ設定 ステータス表示 適用 キャンセル

現在のWDSアクセスポイントリスト:

MACアドレス	Txレート(Mbps)	メモ	選択
00:11:22:33:44:55	Auto	AP2	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル



●設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず[適用]をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は[戻る]を、変更した内容をすぐに有効にする場合は[更新]をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●「WDSを有効にする」がチェックできない場合

〈基本設定〉画面の「モード」で「WDS」または「Router + WDS」を選択し、[適用]をクリックして設定を保存してから、この画面に進んでください。

●WDS設定

WDSを有効にする	WDS機能を有効にする場合にチェックします。 (初期値: オフ=WDS機能が無効)
MACアドレス	ブリッジ接続する無線APのMACアドレスを入力します。
データレート	11n/11g/11b規格の通信における伝送速度を設定します。「自動」に設定しておく、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。(初期値: 自動)
メモ	自由にコメントを入力できます。登録した無線APを区別するのに便利です。

●現在のWDSアクセスポイントリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録した無線APの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

セキュリティ設定	WDSによるブリッジ接続でのセキュリティ方法を設定します。 P83「●WDSセキュリティ設定について」をお読みください。
ステータス表示	〈WDSアクセスポイントステータス〉画面が表示されます。
適用	入力したMACアドレスを持つ無線APをWDSによる接続相手として登録します。
キャンセル	入力中の内容をクリアします。

選択したものを削除	[選択]をチェックした無線APをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、[OK]をクリックしたあと、[更新]をクリックします。
全て削除	リストの無線APの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、[OK]をクリックしたあと、[更新]をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

●〈WDSアクセスポイントステータス〉画面

登録した無線APの統計情報を表示します。

WDSアクセスポイントステータス

MACアドレス	Tx パケット	Tx エラー	Rx パケット	Txレート (Mbps)
00:11:22:33:44:55	30	30	0	24
aa:bb:cc:dd:ee:ff	30	30	0	24

[更新] [閉じる]

WDSを利用する無線APの登録方法

WDS設定

WDSを有効にする

MACアドレス	データレート	メモ
aabbccddeeff	自動	AP3

[セキュリティ設定] [ステータス表示] [適用] [キャンセル]

- [WDSを有効にする]をチェックして、WDSが利用できるようにします。
- [MACアドレス]に、MACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1a2b3c445dff
- [データレート]で伝送速度を設定します。「自動」に設定しておく、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- [適用]をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので [更新] をクリックします。
・しばらくすると、[ホーム]画面が表示されます。

●WDSセキュリティ設定について

〈WDS設定〉画面で、[セキュリティ設定]をクリックするとWDS用のセキュリティ設定画面が表示されます。

WDSセキュリティ設定

暗号化:	WPA (TKIP)
WEPキーフォーマット:	ASCII (5 characters)
WEPキー:	
共有キーフォーマット:	パスフレーズ
共有キー:	

[適用] [キャンセル]



注意

セキュリティ設定について

「Router + WDS」モードを使用する場合は、ブリッジ接続による無線APのセキュリティ設定と、無線子機⇄無線AP間のセキュリティ設定は同一の設定にする必要があります。ここでの設定と、[無線設定]→[セキュリティ設定]のセキュリティ設定が同一になるようしてください。

設定の方法については、P87「4. セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参考に設定してください。

サイトサーベイ画面

本製品の電波の届く範囲に存在する無線クライアント（無線子機）を一覧で表示します。本製品とリンクしていない無線クライアントも表示されます。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[サイトサーベイ]を選択します。

無線LANサイトサーベイ

更新

SSID	BSSID	チャンネル	タイプ	暗号化	信号強度
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	6 (B+G+N)	AP	WEP	72
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	6 (B+G+N)	AP	WPA2-PSK	72
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	1 (B+G)	AP	WEP	16
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	4 (B+G+N)	AP	no	16
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	5 (B+G+N)	AP	WPA2-PSK	16

SSID	無線クライアントが使用するSSIDを表示します。
BSSID	無線クライアントのBSSIDを表示します。
チャンネル	無線クライアントが使用する無線規格およびチャンネルを表示します。
タイプ	本製品と無線クライアントとの接続状態を表示します。
暗号化	無線クライアントが使用する暗号化方式を表示します。
信号強度	無線クライアントとの電波の強度を%で表示します。数字が大きいほど安定して接続できます。

●ボタンの機能

更新	最新の情報にリストを更新します。
----	------------------

WPS機能の設定

WPS (Wi-Fi Protected Setup) 機能の設定をします。



注意

本製品では下記の設定をおこなった場合、WPS機能を使用することはできません。

- ・「無線アクセスコントロール機能」を「許可」にした場合(→P79)
- ・「セキュリティ設定」で「暗号化」に「WEP」を選択した場合(→P89)

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[WPS]を選択します。

WPS設定

WPSを無効にする
 PINコードを無効にする

適用 キャンセル

WPSステータス: 設定済み 未設定
 未設定に戻す

PINコード: 44739485

ボタンで設定: 実行

クライアントのPINコードで設定: 実行

現在の設定

認証方式	暗号方式	キー
WPA2-Mixed PSK	TKIP+AES	キー



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は「戻る」を、変更した内容をすぐに有効にする場合は「更新」をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●WPSを無効にする

WPS機能を無効にする場合はチェックします。(初期値:有効)

●PINコードを無効にする

PIN方式を無効にする場合はチェックします。(初期値:有効)

●入力・設定画面の内容

WPSステータス	現在のWPS設定の状態を表示します。
未設定に戻す	WPS設定を初期値に戻します。
PINコード	本製品のPINコードを表示します。
ボタンで設定	<input type="button" value="実行"/> をクリックすることで、WPS機能を実行できます。本製品の本体に装備された「WPS設定ボタン」を押すのと同じことです。
クライアントのPINコードで設定	本製品側で無線子機のPINコードにあわせる場合に、ここに無線子機側のPINコードを入力し、 <input type="button" value="実行"/> をクリックします。
現在の設定	現在のセキュリティ設定の状態を表示します。

4 セキュリティを設定する(無線の暗号化)

無線LANで使用するデータの暗号化などのセキュリティの設定方法について説明します。

本製品で設定可能な暗号化セキュリティ機能

WEP	無線LANの普及期からある暗号化方式です。本製品は64bitと128bitの2種類の暗号強度が選択できます。ご利用の無線LAN環境で「WPAプレシェアードキー」が使用可能な場合は、そちらを使用することをお勧めします。 ※本製品では「WEP」を選択した場合、WPS機能を使用することはできません。
WPAプレシェアードキー (WPA-PSK/WPA2-PSK)	データの暗号化だけでなく認証機能も含まれた二重のセキュリティ機能です。WEPよりも高度な暗号化方式で、パソコンを使う無線LANのセキュリティ機能の主流となっています。本製品では、WPA-PSKとWPA2-PSKが使用できます。暗号化方式には、AESまたはTKIPが選択できます。本製品では、[WPAモード]を[WPA-Mixed]に設定することで、無線子機がWPA-PSK/WPA2-PSKのどちらを使っても対応することができます。

●本製品のセキュリティ設定の初期値

項目	本製品の設定値(初期値)	
SSID	logitec-XXXXXX ※ XXXXXXには、0~9、a~fのランダムな半角英数字が組み合わされて表示されます。	
認証方式	WPA プレシェードキー	無線子機側は「WPA2-PSK」を選択します。
暗号化方式	AES	無線子機側は「AES」を指定します。
WPAユニキャスト暗号サイト	WPA2-PSK (AES)	
共有キーフォーマット	パスフレーズ	
暗号キー	<p>本製品に付属の設定情報シール、または本製品の背面カバーを外したときに見える暗号キーラベルをご覧ください。使用されている文字は半角英数字の大文字です。</p> <p>●設定情報シール</p>  <p>●暗号キーラベル</p>  <p>暗号キー (Xには、0~9、A~Hのランダムな半角英数字13文字が入ります。)</p> <p>KEY記入欄</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-top: 5px;"></div>	

WEPの設定

無線通信の暗号化セキュリティに「WEP」を使用します。



注意

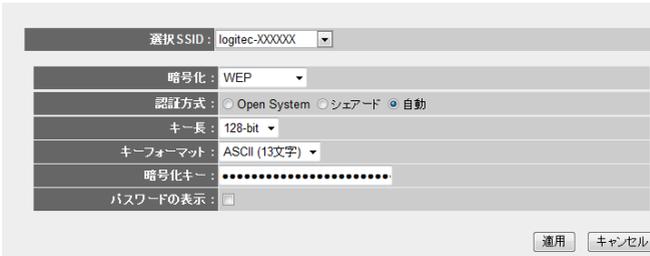
「WEP」を選択した場合、WPS機能は使用できません。



画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]を選択します。

◆WEP選択時の設定画面



設定の手順



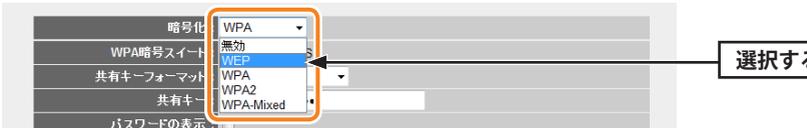
注意

本製品および本製品に接続する、すべての無線子機は、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。

1 [選択SSID]で、セキュリティ設定をする「SSID」を選択します。



2 [暗号化]で、「WEP」を選択します。



3 [認証方式]で、使用する認証方式を選択します。

- わからない場合は「自動」を選択します。

4 [キー長]でbit数を選択します。通常は128bitを選択します。

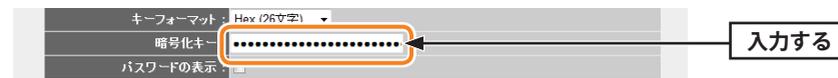
ご使用になる無線子機が64bitにしか対応していない場合などは、64bitを選択します。ご使用になる無線子機に1台でも64bitにしか対応していないものがある場合は、64bitしか使用できません。なお、64bitはセキュリティ性が低くお勧めできませんので、なるべく使用しないでください。

5 [キーフォーマット]で暗号化キーの入力形式を選択します。

- ここで選択した形式の文字列で暗号化キーを設定します。

ASCII (5文字)	キー長で64bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、半角英数字5文字を入力します。
ASCII (13文字)	キー長で128bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、半角英数字13文字を入力します。
Hex (10文字)	キー長で64bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、16進数10文字を入力します。
Hex (26文字)	キー長で128bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、16進数26文字を入力します。

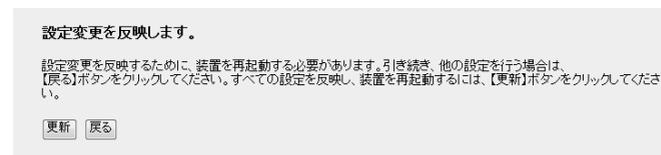
※16進数とは、0~9、a-fを組み合わせた文字列です。

6 [暗号化キー]に、手順**5**で選んだ入力形式で、文字列を入力します。

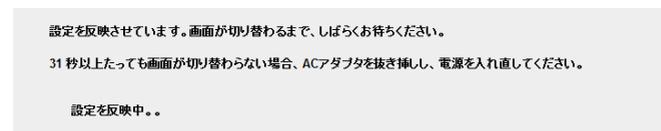
- ASCIIの場合は大文字と小文字が区別されます。Hexの場合は大文字と小文字は区別されません。

7 すべての設定が終われば [適用] をクリックします。

- 「if WEP is turn on, WPS2.0 will be disabled」と表示されますので [OK] をクリックします。

8 「設定変更を反映します。」と表示されます。

- 他の設定を続ける場合→ [戻る] をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→ [更新] をクリックし、手順**9**へ進みます。

9 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。**10** これで本製品のWEPによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線子機側にも設定してください。

- 無線子機側の設定方法は、無線子機の説明書をお読みください。

WPAプレシェードキーの設定

WPAプレシェードキー (WPA-PSK) を使ってセキュリティ設定をします。WPA2-PSK/WPA-PSKは、小規模なネットワークでも安全度の高いセキュリティを簡単に実現できます。設定にあたっては、あらかじめ「共有キー」を決めておいてください。



本製品および本製品に接続する、すべての無線子機は、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。



[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]を選択します。

◆ WPA-PSK 選択時の設定画面

1 [選択SSID]で、セキュリティ設定をする「SSID」を選択します。

2 [暗号化]で、[WPA]、[WPA2]または[WPA2-Mixed]を選択します。

WPA	WPA-PSKを使用します。
WPA2	WPA2-PSKを使用します。
WPA2-Mixed	無線子機にWPA-PSK (「AES」または「TKIP」)とWPA2-PSK (「AES」または「TKIP」)が混在している場合でも、いずれの無線子機とも接続できます。また、無線子機がすべて「WPA2-PSK (TKIP)」の場合も、こちらを選択します。

3 [WPA暗号スイート]で、ご使用になる無線子機が対応している種別を選択します。

TKIP	暗号化の種別に「TKIP」を使用します。
AES	暗号化の種別に「AES」を使用します。

4 [共有キーフォーマット]で、共有キーの入力形式を選択します。

パスフレーズ	半角英数字(8~63文字)を使用できます。大文字と小文字が区別されます。
HEX	16進数64文字(固定)を使用できます。大文字と小文字は区別されません。

※16進数とは、半角英数字の0~9、a-fを組み合わせた文字列です。

5 [共有キー]に、暗号キーを入力します。

6 すべての設定が終われば [適用] をクリックします。

7 「設定変更を反映します。」と表示されます。

設定変更を反映します。

設定変更を反映するために、装置を再起動する必要があります。引き続き、他の設定を行う場合は、**【戻る】**ボタンをクリックしてください。すべての設定を反映し、装置を再起動するには、**【更新】**ボタンをクリックしてください。

更新 **戻る**

- 他の設定を続ける場合→ **【戻る】** をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→ **【更新】** をクリックし、手順 **8** へ進みます。

8 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。

設定を反映させています。画面が切り替わるまで、しばらくお待ちください。

31 秒以上たっても画面が切り替わらない場合、ACアダプタを抜き挿しし、電源を入れ直してください。

設定を反映中。。

9 これで本製品のWPAによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線子機側にも設定してください。

- 無線子機側の設定方法は、無線子機の説明書をお読みください。

5 QoSを設定する

QoS (Quality of Service) は特定の通信について、あらかじめ使用する帯域を予約しておくことで、その通信の速度を保証する機能です。例えばストリーミングのように一定の転送速度が確保されないと実用的でないようなサービスを利用するとき有効です。

画面の表示

[ホーム] で [詳細設定(上級者向け)] を選択し、左のメニューリストから [QoS] を選択します。

QoS

QoSを有効にする

アップロード速度を自動で設定する:

アップロード速度を手動で設定する (Kbps): 512

ダウンロード速度を自動で設定する:

ダウンロード速度を手動で設定する (Kbps): 512

QoSルール設定

アドレスタイプ: IP MAC

ローカルIPアドレス: _____ - _____

MACアドレス: _____

モード: 最低保証帯域 ▾

アップロード帯域幅 (Kbps): _____

ダウンロード帯域幅 (Kbps): _____

メモ: _____

適用 **キャンセル**

現在のQoSルールテーブル:

ローカルIPアドレス	MACアドレス	モード	アップロード帯域幅	ダウンロード帯域幅	メモ	選択
192.168.2.111 - 192.168.2.111	---	Guaranteed minimum bandwidth	-	20000	streaming	<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 **全て削除** **キャンセル**



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **【適用】** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **【戻る】** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **【更新】** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●QoSを有効にする

QoS機能を使用する場合はチェックします。(初期値：無効)

アップロード速度を自動で設定する	アップロードで確保する全体の帯域幅を自動で設定する場合はチェックします。
アップロード速度を手動で設定する	[アップロード速度を自動で設定する]のチェックを外すことで、速度を手動で設定できます。
ダウンロード速度を自動で設定する	ダウンロードで確保する全体の帯域幅を自動で設定する場合はチェックします。
ダウンロード速度を手動で設定する	[ダウンロード速度を自動で設定する]のチェックを外すことで、速度を手動で設定できます。

●QoSルール設定

ルールの内容を設定します。項目の内容については、[P97](#)を参照してください。

●現在のQoSルールテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したルールの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたルールをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
全て削除	リストのルールの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ルールの作成方法

具体的なルールを設定します。

- 1 [QoSを有効にする]をチェックします。
- 2 アップロードで確保する全体の帯域幅または、ダウンロードで確保する全体の帯域幅を設定します。自動設定、手動設定、いずれかの方法で設定できます。
- 3 [QoSルール設定]でルールの内容を設定します。項目の内容については、以下の一覧を参照してください。
- 4 設定が終われば、をクリックします。
- 5 登録するルールが複数ある場合は、**1**～**4**を繰り返します。

アドレスタイプ	「IPアドレス」か、「MACアドレス」のいずれかを選択します。
ローカルIPアドレス	このルールを適用するクライアントのIPアドレス範囲を入力します。対象が1台の場合は、左右に同じIPアドレスを入力します。[アドレスタイプ]で「IP」を選択した場合のみ、入力可能です。
MACアドレス	このルールを適用するクライアントのMACアドレス範囲を入力します。[アドレスタイプ]で「MAC」を選択した場合のみ、入力可能です。
モード	最低保証帯域か、最大帯域制限(最大)のいずれかを選択します。
アップロード帯域幅 (Kbps)	アップロードで確保する帯域幅を入力します。
ダウンロード帯域幅 (Kbps)	ダウンロードで確保する帯域幅を入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。

6 ファイアウォール機能を設定する

ネットワーク環境を安全で快適に使用できるように、各種ファイアウォールを設定できます。

ポートフィルタの設定

無線LANの基本的な機能について設定します。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール]→[ポートフィルタ]を選択します。

ポートフィルタ

ポートフィルタを有効にする

ポートレンジ: 137 - 139

プロトコル: Both

プロトコル:

適用 キャンセル

現在のポートフィルタテーブル:

ポートレンジ	プロトコル	メモ	選択
137-139	TCP+UDP		<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

ポートフィルタを有効にする	ポートフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
ポートレンジ	接続を制限するポート番号の範囲を指定します。1ポートだけの場合は、左側の入力枠にポート番号を入力します。
プロトコル	フィルタの対象とするプロトコルを選択します。(初期値: Both[両方])
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したサービスの説明などに便利です。

●現在のポートフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたポート番号の範囲をリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
全て削除	リストのポート番号の範囲の設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ポートフィルタの設定方法

ポートフィルタ

ポートフィルタを有効にする

ポートレンジ: 137 - 139

プロトコル: Both

プロトコル:

適用 キャンセル

現在のポートフィルタテーブル:

ポートレンジ	プロトコル	メモ	選択
137-139	TCP+UDP		<input type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル

- 1 [ポートフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 [ポートレンジ]に対象となるサービスのポート番号の範囲を入力します。
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 **適用** をクリックします。
- 6 登録するサービス(ポート番号)が複数ある場合は、**1**～**5**を繰り返します。

IPアドレスフィルタの設定

本製品に接続するクライアントのうち、登録したIPアドレスを持つクライアントについて、インターネットへの接続を制限します。



注意

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P54の【固定DHCP設定画面】で、IPアドレスフィルタリングの対象となるクライアントのIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、正しくフィルタリングすることができません。



画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール]→[IPフィルタリング]を選択します。

IPアドレスフィルタ

IPアドレスフィルタを有効にする

ローカルIPアドレス:

プロトコル: Both

メモ:

適用 キャンセル

現在のIPアドレスフィルタテーブル

ローカルIPアドレス	プロトコル	メモ	選択
------------	-------	----	----

選択したものを削除 全て削除 キャンセル



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

IPアドレスフィルタを有効にする	IPアドレスフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
ローカルIPアドレス	インターネットへの接続を拒否するクライアントのIPアドレスを入力します。
プロトコル	フィルタの対象とするプロトコルを選択します。(初期値: Both[両方])
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在のIPアドレスフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

IPアドレスフィルタの設定方法

IPアドレスフィルタ

IPアドレスフィルタを有効にする

ローカルIPアドレス: 192.168.2.161

プロトコル: Both

メモ: guest

適用 キャンセル

現在のIPアドレスフィルタテーブル

ローカルIPアドレス	プロトコル	メモ	選択
192.168.2.161			<input checked="" type="checkbox"/>

選択したものを削除 全て削除 キャンセル

- 1 [IPアドレスフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 [ローカルIPアドレス]に対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 **適用** をクリックします。
- 6 登録するクライアントが複数ある場合は、**1**～**5**を繰り返します。

MACアドレスフィルタの設定

本製品に接続するクライアントのアクセスをコントロールします。ここに登録されたMACアドレスを持つクライアントは、本製品に接続することができなくなります。第三者の不正アクセスの防止などに役立ちます。

画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール]→[MACフィルタリング]を選択します。

MACアドレスフィルタ

MACアドレスフィルタを有効にする

MACアドレス:

メモ:

現在の設定

MACアドレス	メモ	選択
		<input type="button" value="選択したものを削除"/> <input type="button" value="全て削除"/> <input type="button" value="キャンセル"/>



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は を、変更した内容をすぐに有効にする場合は をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

MACアドレスフィルタを有効にする	MACアドレスフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
MACアドレス	本製品への接続を拒否するクライアントのMACアドレスを入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在の設定

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

クライアントの登録方法

MACアドレスフィルタ

MACアドレスフィルタを有効にする

MACアドレス: 001122334455

メモ: 不明なクライアント

現在の設定

MACアドレス	メモ	選択
		<input type="button" value="選択したものを削除"/> <input type="button" value="全て削除"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

- 1 [MACアドレスフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 [クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1234567890gh
- 3 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 4 をクリックします。
- 5 登録するクライアントが複数ある場合は、**1**～**4**を繰り返します。

ポートフォワーディングの設定

ポート転送(ポートフォワーディング)機能を設定します。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN(インターネット)側からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできませんが、この機能を利用することで、LAN上にある指定されたコンピュータをWAN側に開放することができます。



注意

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P54の【固定DHCP設定画面】で、ポートフォワーディングの対象となるクライアントのIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、意図しないコンピュータがWAN側に開放される恐れがあります。



画面の表示

[ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール]→[ポートフォワーディング]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は「戻る」を、変更した内容をすぐに有効にする場合は「更新」をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

ポートフォワーディングを有効にする	ポートフォワーディング機能を使用する場合はチェックします。
IPアドレス	ポートフォワーディングの対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。
プロトコル	プロトコルを選択します。(初期値：Both[両方])
ポート範囲	インターネット側から見た送信先のポート番号の範囲を入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在のIPアドレスフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ポートフォワーディングの登録方法

ポートフォワーディング

ポートフォワーディングを有効にする

IPアドレス:	192.168.2.131
プロトコル:	Both
ポート範囲:	
メモ:	

現在のIPアドレスフィルタテーブル

ローカルIPアドレス	プロトコル	ポートレンジ	メモ	選択
<input type="button" value="選択したものを削除"/> <input type="button" value="全て削除"/> <input type="button" value="キャンセル"/>				

- 1 [ポートフォワーディングを有効にする]をチェックします。
- 2 [IPアドレス]に対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 [ポート範囲]に対象となるポート番号の範囲を入力します。
- 5 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 6 をクリックします。
- 7 登録するクライアントが複数ある場合は、**1**～**6**を繰り返します。

URLフィルタの設定

特定のWebサイトのURLを設定することで、ホームページの閲覧を拒否します。

画面の表示 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール] → [URLブロック]を選択します。

URLフィルタ

URLフィルタリングを有効にする

URLアドレス:	
----------	--

現在のURLフィルタテーブル

URLアドレス	選択
<input type="button" value="選択したものを削除"/> <input type="button" value="全て削除"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は を、変更した内容をすぐに有効にする場合は をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

URLフィルタリングを有効にする	URLフィルタを使用する場合はチェックします。
URLアドレス	接続を拒否するWebサイトのURLを入力します。

●現在のURLフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したURLの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたURLをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
全て削除	リストのURLの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

URLフィルタの設定方法

- ① [URLフィルタリングを有効にする]をチェックします。
- ② [URLアドレス]に対象となるWebサイトのURLを入力します。
- ③ [適用]をクリックします。
- ④ 登録するURLが複数ある場合は、①～③を繰り返します。

DMZの設定

通常、NAT変換を利用するルータでは、WAN（インターネット）側からLAN上のパソコンにアクセスすることはできません。DMZ機能を使用すると、指定したコンピュータにWAN側からアクセスできるようになります。これにより、LAN上からは通常使用できない双方向通信を利用したサービスを利用できます。

画面の表示 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[ファイアウォール] → [DMZ]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず [適用] をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は [戻る] を、変更した内容をすぐに有効にする場合は [更新] をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定画面の内容

DMZを有効にする	DMZ機能を使用する場合はチェックします。
DMZホストIPアドレス	インターネット(外部)に公開するWAN側IPアドレスを選択します。「。」で区切る必要があります。 例 192.168.2.131

7 ツール機能を使う

ツール機能には、設定の保存、設定の初期化(工場出荷時の状態に戻す)、ファームウェアのアップデートなどができます。ファームウェアのアップデートについては、P112「[8. ファームウェアのアップデート](#)」をお読みください。

設定保存/読込

本製品の設定情報をファイルとして保存できます。保存したファイルを読み込むことで、本製品の状態を、設定情報を保存した時点の状態にすることができます。また、本製品の設定内容を初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

画面の
表示

[ホーム]で[管理ツール]を選択し、左のメニューリストから[ツール]→[設定保存/読込]を選択します。



設定の保存方法



- 1 「保存」をクリックします
- 2 <ファイルのダウンロード>画面が表示されますので、「保存」をクリックします。
- 3 <名前を付けて保存>画面が表示されますので、ファイルの保存場所を指定し、「保存」をクリックします。指定した場所に「config.dat」ファイルが保存されます。
- 4 「完了しました」と表示されますので、画面を閉じます。<設定保存/読込>画面に戻ります。

設定の読み込み方法



- 1 [保存した設定を読込]の「参照」をクリックします
- 2 ファイルの選択画面が表示されますので、設定ファイルを指定します。
- 3 「読込」をクリックします。
- 4 「設定を保存しています」と表示され、しばらくすると自動的に<ホーム>画面が表示されます。

設定を初期化(工場出荷時の状態)に戻す

本製品の設定を初期化(工場出荷時の状態に戻す)します。ご購入後に変更した設定はすべて初期値に戻ります。必要に応じて初期化の前に設定をファイルに保存してください。



- 1 [初期化]の「初期化実行」をクリックします。
- 2 工場出荷時の状態に戻してよいか、確認のメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。
- 3 「Reload setting successfully!」と表示され、しばらくすると自動的に<ホーム>画面が表示されます。

8 ファームウェアのアップデート

機能の充実や改良により、本製品のファームウェアをバージョンアップすることがあります。ファームウェアをアップデートすることで、本製品を最新の状態にすることができますので、新しい機能を追加したり、操作を改善することができます。ファームウェアのアップデートの方法は2種類あります。

ファームウェアは、弊社Webサイトのサポートページよりダウンロードできます。

実行ファイルを使ったアップデート	ダウンロードした圧縮ファイルを実行することで、自動的にファームウェアをアップデートできます。Windows OSのみ対応します。
設定ユーティリティを使ったアップデート	ダウンロードしたbinファイルを、設定ユーティリティの「ファームウェアアップデート」機能を使ってアップデートできます。



注意

- ファームウェアのダウンロードとアップデートは、必ずパソコンでおこなってください。スマートフォンやタブレット、Wi-Fiゲーム機などからは更新できません。
- パソコンと本製品のLANポートを有線LANで接続した状態で、ダウンロードとアップデートをおこなってください。パソコンはIPアドレスを自動取得できるように設定しておいてください。
- アップデートするファームウェアは、必ず本製品のものを使用してください。本製品以外のファームウェアを使ってアップデートすると、本製品が故障する恐れがあります。

実行ファイルを使ったアップデート(Windowsのみ)

ダウンロードした圧縮ファイルを実行して、ファームウェアをアップデートします。

ファームウェアのダウンロード

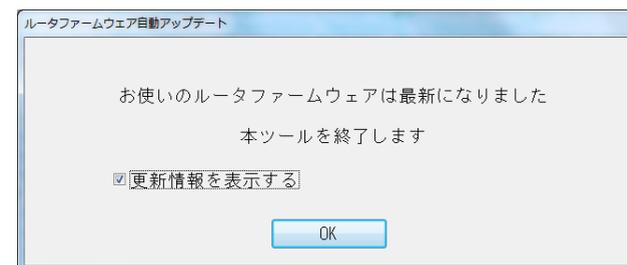
- ① インターネットに接続します。
- ② Webブラウザのアドレス欄に「6409.jp」と入力し、接続します。
- ③ [ダウンロード]をクリックします。
- ④ [製品型番検索システム]をクリックします。
- ⑤ 本製品の型番(LAN-W301NR)を検索します。
- ⑥ [ファームウェア・アップデート]を説明に従ってダウンロードします。
 - ・ダウンロードファイルの保存場所には、デスクトップを指定してください。

アップデート手順



アップデート中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。本製品が故障する恐れがあります。

- ① 有線接続でダウンロードした圧縮ファイルのアイコンをダブルクリックします。
- ② 表示されるメッセージに従って操作を行います。
 - ・アップデートが完了するまで、絶対に本製品の電源を切らないでください。
- ③ 以下のウィンドウが表示されれば、ファームウェアのアップデートは完了です。本製品の電源ケーブル(ACアダプタ)を抜き挿しして、電源を入れ直してください。



※画面はWindowsの例です。

設定ユーティリティを使ったアップデート

画面の表示

[ホーム]で[管理ツール]を選択し、左のメニューリストから[ツール]→[ファームウェアアップデート]を選択します。



ファームウェアのダウンロード

- ① パソコンと本製品を有線LANで接続します。
 - ・パソコンはIPアドレスを自動取得できるように設定しておいてください。
- ② インターネットに接続します。
- ③ Webブラウザのアドレス欄に「6409.jp」と入力し、接続します。
 - ・「http://」の入力は必要ありません。
- ④ [ダウンロード]をクリックします。
- ⑤ [製品型番検索システム]をクリックします。
- ⑥ 本製品の型番を検索します。
- ⑦ [ファームウェア・アップデート]をクリックします。
 - ・ダウンロード前に注意事項などがないか、ダウンロードページでご確認ください。
- ⑧ 説明に従ってダウンロードします。
 - ・ダウンロードファイルの保存場所には、デスクトップを指定してください。

Windowsでのアップデート手順



注意

アップデート中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。本製品が故障する恐れがあります。

- ① ダウンロードした圧縮ファイルのアイコン(電子レンジ型)をダブルクリックします。
- ② メッセージに従って解凍し、デスクトップ上に保存します。
- ③ <ファームウェアアップデート>画面で、**次へ**をクリックします (P114「画面の表示」参照)。
- ④ 表示された画面で、**参照**をクリックします。



- ⑤ <アップロードするファイルの選択>画面が表示されますので、解凍したファイルを指定し、**開く**をクリックします。
- ⑥ **アップロードする**をクリックします。
- ⑦ アップデートを確認するメッセージが表示されますので、**OK**をクリックします。
- ⑧ アップデート中の注意事項が表示されますので内容を確認のうえ、**OK**をクリックします。
 - ・アップデートが完了するまで、絶対に本製品の電源を切らないでください。
- ⑨ アップデートが完了すると「アップデートが完了しました。」と表示されます。
- ⑩ 本製品の電源ケーブル(ACアダプタ)を抜き差しして電源を入れ直します。
 - ・新しいファームウェアで動作するようになります。

Macでのアップデート手順



注意

アップデート中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。本製品が故障する恐れがあります。

- ① ダウンロードした圧縮ファイル(ZIP形式)を解凍します。
 - ・メッセージに従って解凍し、デスクトップ上に保存します。
 - ・ご使用の環境によっては、解凍作業が不要な場合があります
- ② このあとは、「Windowsでのアップデート手順」の手順③～⑩を実行します。

9 システム設定

省電力設定

本製品の省電力機能を有効にすると、PWRランプ以外のランプがオフになり、消費電力を抑えることができます。

画面の表示 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[システム]→[省電力設定]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

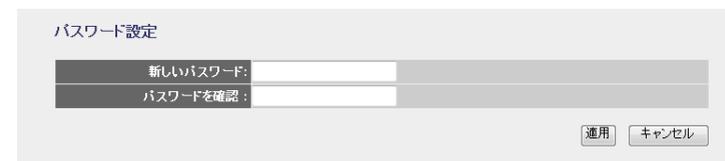
省電力機能を有効にする

省電力機能を有効にする場合はチェックします。

パスワード設定

本製品の設定ユーティリティを表示するためのパスワードを設定/変更します。

画面の表示 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[システム]→[パスワード設定]を選択します。



注意

●パスワードの変更をお勧めします

設定ユーティリティへのパスワードが初期値のままだと、各種設定情報を自由に閲覧したり、パスワードを変更したりすることができます。設定ユーティリティのログインパスワードの変更をお勧めします。

●変更後のパスワードを忘れないでください

変更後の設定を忘れると、本製品を初期化する必要があります。すべての設定が初期化されますので、パスワードは忘れないようにしてください。

設定の手順

- ① [新しいパスワード]に、新しく設定するパスワードを入力します。
- ② [パスワードを確認]に、もう一度、新しいパスワードを入力します。
- ③ **適用** をクリックします。
 - ・「Change setting successfully!」と表示され、しばらくすると認証画面(→P29)が表示されます。
- ④ 新しく設定したパスワードを入力し、**OK** をクリックします。
 - ・〈ホーム〉画面が表示されます。

10 ステータス

ステータス

本製品に関するさまざまなステータス情報を確認することができます。

画面の表示

[ホーム]で[機器のステータス]を選択し、左のメニューリストから[ステータス]→[機器のステータス]を選択します。

機器のステータス	
システム	
Uptime	0day:1h:27m:36s
ファームウェア	v0.7.0
ファームウェア Build Time	Fri Mar 15 19:48:58 CST 2013
無線設定状況	
モード	AP
帯域	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	logitec-XXXXXX
チャンネル	11
暗号化	WPA2
BSSID	XXXXXXXXXX
関連クライアント数	0
SSID1 設定状況	
帯域	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	logitec2nd-XXXXXX
暗号化	WEP 128bits
BSSID	XXXXXXXXXX
関連クライアント数	0
LAN側設定	
IPアドレス	192.168.2.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCP	Enabled
MACアドレス	XXXXXXXXXX
WAN側設定	
IPアドレス取得方法	DHCP未接続
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
MACアドレス	XXXXXXXXXX

●システム

Uptime	本製品の起動後の経過時間を表示します。電源を切ったり、再起動するとリセットされます。
ファームウェア	ファームウェアのバージョンを表示します。
ファームウェア Build Time	ファームウェアの作成日を表示します。

●無線設定 状況

モード	現在の無線における通信モードを表示します。
帯域	無線LANで使用している周波数帯域と、使用中の無線規格を表示します。
SSID	現在使用中のSSIDを表示します。
チャンネル	現在のチャンネルモードを表示します。
暗号化	現在使用中の暗号化設定を表示します。
BSSID	BSSIDを表示します。
関連クライアント数	このSSIDに接続している無線子機の数です。

●SSID1 設定 状況

帯域	無線LANで使用している周波数帯域と、使用中の無線規格を表示します。
SSID	現在使用中のマルチSSIDのSSIDを表示します。
暗号化	現在使用中の暗号化設定を表示します。
BSSID	BSSIDを表示します。
関連クライアント数	このSSIDに接続している無線子機の数です。

●LAN側設定

IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在のサブネットマスクを表示します。
DHCP	DHCP機能の状態を表示します。「Enabled」と表示されている場合、DHCPサーバ機能が有効になっています。
MACアドレス	本製品のLAN側のMACアドレスを表示します。

●WAN側設定

IPアドレス取得方法	WAN側のIPアドレス取得方法を表示します。
IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	現在のデフォルトゲートウェイを表示します。
MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。

パケット統計

各種統計情報を表示します。**更新** をクリックすると統計情報を最新の状態に更新します。

画面の表示

[ホーム]で**機器のステータス**を選択し、左のメニューリストから**[ステータス]→[パケット統計]**を選択します。

統計		
無線LAN	送信パケット	19
	受信パケット	80
イーサネットLAN	送信パケット	6858
	受信パケット	8594
イーサネットWAN	送信パケット	0
	受信パケット	0

更新

●統計

無線LAN	本製品から見た無線LANにおける、パケット送信数と受信パケット数を表示します。
イーサネットLAN	本製品から見た有線LANにおける、パケット送信数と受信パケット数を表示します。
イーサネットWAN	本製品から見たWAN側に対する、パケット送信数と受信パケット数を表示します。

システムログ

本製品のシステムログを取得することができます。

画面の表示

[ホーム]で**機器のステータス**を選択し、左のメニューリストから**[ステータス]→[システムログ]**を選択します。

システムログ

ログ機能を有効にする

システムログ:

無線ログ:

適用

更新 **キャンセル**



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず**適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は**戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は**更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

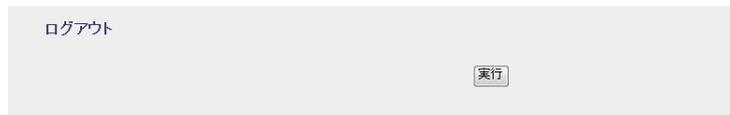
ログ機能を有効にする	この項目をチェックすると、ログの取得を有効にします。 (初期値：オフ=ログを取得しない) 有効にした場合は、ログの取得内容を選択します。 システムログ：システム全体のログを取得します。 無線ログ：無線LANに関するログのみを取得します。
適用	上記項目の設定を変更した場合にクリックします。画面のメッセージに従って変更内容を保存してください。
更新	ログの内容を更新します。
キャンセル	記録されているログを消去します。

ログアウト

設定ユーティリティからログアウトします。1台のパソコンを複数のユーザーで使用している場合、ログインしたままだと、他の人が設定ユーティリティにアクセスすることができます。設定終了後もパソコンを起動しておく場合は、必ずログアウトしてください。

画面の表示

[ホーム]で[機器のステータス]を選択し、左のメニューリストから[ステータス]→[ログアウト]を選択します。



ログアウトの手順

- ① [実行]をクリックします。
- ② 認証画面 (→P29) が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力し、 をクリックします。
 - ・〈ホーム〉画面が表示されます。

Appendix

付録編

1 APモードで設定ユーティリティにアクセスする

本製品をAPモードでご使用の場合、ご使用のネットワークのセグメントが「192.168.2.xxx」以外の場合は、ご使用のネットワークにセグメントを合わせないと、本製品の設定ユーティリティにアクセスすることができません。以下の手順で、設定ユーティリティにアクセスし、IPアドレスを手動で設定します。

※本製品のIPアドレス(初期値)「192.168.2.1」を、他の機器でご使用の場合で、本製品にアクセスする場合も、IPアドレスの変更が必要です。

1 設定用にパソコンを1台用意します。

2 パソコンのIPアドレスを手動設定に変更し、本製品と同じセグメント(192.168.2.xxx)を割り当てます。

例)パソコンのIPアドレス＝192.168.2.201

※192.168.2.1は本製品のIPアドレスです。使用しないでください。

3 パソコンと本製品を有線LANで配線します。

4 パソコンのWebブラウザを起動します。アドレス欄に「http://192.168.2.1」と入力し、設定画面にアクセスします。

5 設定ユーティリティにログインします。

・初期値は、ユーザー名「admin」、パスワード「admin」です。

6 [ホーム]で[詳細設定(上級者向け)]を選択し、左のメニューリストから[LAN側設定]を選択します。

7 [LAN IP]の[IPアドレス]を、ご使用のネットワークのセグメントに合わせます。

例)ご使用のネットワークが「192.168.0.1」の場合

→本製品の固定IPアドレス「192.168.0.xxx」

※「xxx」は、ご使用のネットワークの他のクライアントと重複しない数値を設定してください。

本製品のIPアドレスは忘れないようにメモしてください。

192.168. .

8 **適用** をクリックし、設定を保存します。

9 設定に使用したパソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

10 これで、ご使用のネットワーク上のパソコンから、本製品の設定ユーティリティにアクセスできるようになります。

・本製品の設定ユーティリティにアクセスしたい場合は、パソコンのWebブラウザのアドレス欄に「http://(本製品に指定したIPアドレス)」を入力して、アクセスします。

例)本製品に「192.168.0.201」を割り当てた場合→http://192.168.0.201

2 スマートフォンから手動で無線接続する

カメラ機能を搭載していないiOS搭載機器 (iPhone/iPad/iPod touch) またはAndroid端末から、本製品へ無線接続するには、暗号キー入力による手動設定が必要です。ここではiPhoneやAndroid端末から本製品へ手動でWi-Fi接続するための設定手順およびインターネットへの接続手順を説明します。

 カメラ機能を搭載したモデルからの接続については、「かんたんセットアップガイド[補足編]スマートフォン接続/FAQ」をお読みください。

iPhone等/Android端末から本製品に無線接続する

 電波干渉を避けるため、Bluetooth機能をオフにすることを推奨します。

iOS搭載機器 (iPhone/iPad/iPod touch) からの接続

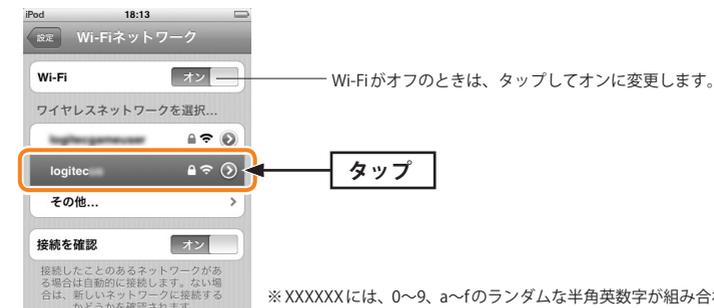
① メインメニューの[設定]をタップ(選択)します。



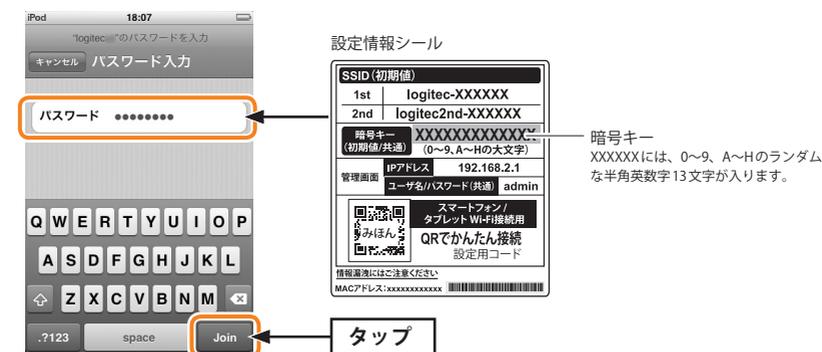
② 設定メニューの[Wi-Fi]をタップします。



③ リストに表示された「logitec-XXXXXX」をタップします。



④ 本製品のパスワードを入力し、[Join]をタップします。



- パスワードは、本製品に付属の「設定情報シール」の「Key」に記載されている13文字の半角英数字 (すべて大文字) です。
- iOS搭載機器で英字を大文字で入力するには、毎回  を押してから、アルファベットを選択する必要があります。

5 正しく接続できたか確認します。



●無線接続に失敗した場合

手順4で誤ったパスワードを入力した可能性があります。

次の手順で接続をやり直してください。

- ① リストに表示された「logitec-XXXXXX」の右端にある[>]をタップします。
- ② 「このネットワーク設定を削除」をタップします。
- ③ 手順5からやり直します。

●「ネットワーク“logitec-XXXXXX”に接続できません。」と表示された場合



- ・ iPhone/iPad/iPod touchの電源をいったん切り、再び入れてからやり直してください。
- ・ Bluetooth機能がオンの場合、電波干渉によりWi-Fi接続ができないことがあります。Bluetooth機能をオフにしてからやり直してください。

6 これでiPhone等から本製品への接続作業は完了です。

- ・ 本製品からインターネットに接続する設定が完了していない場合は、P132「インターネット接続の設定手順」をお読みください。

Android 端末からの接続

1 左下のボタンをタップします。



画面はIS03での例です。お使いの機種により画面の内容が異なる場合がありますが、操作方法は同様です。詳しくは各社スマートフォンの説明書をご確認ください。

2 [設定]をタップします。



③ [無線とネットワーク]をタップします。



④ [Wi-Fi設定]をタップします。

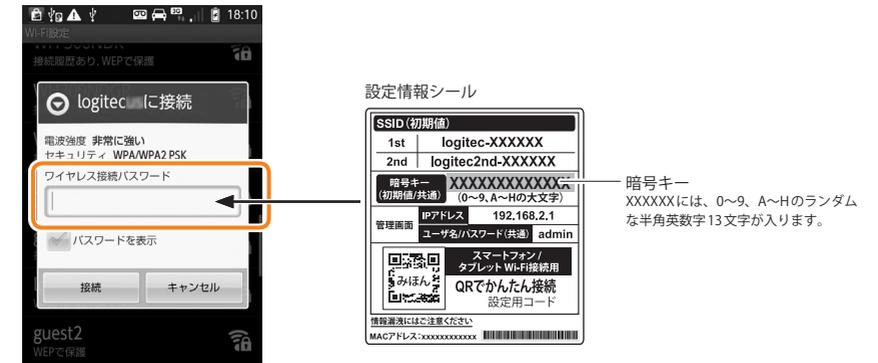


⑤ 一覧から「logitec-XXXXXX」をタップします。



※ XXXXXXには、0~9、a~fのランダムな半角英数字が組み合わされて表示されます。

⑥ 本製品に付属の設定情報シールに記載されている13文字の半角英数字(すべて大文字)を入力します。



⑦ 画面上部にWi-Fiが表示されていることを確認します。



⑧ これでAndroid端末から本製品への接続作業は完了です。

- ・ 本製品からインターネットに接続する設定が完了していない場合は、P132「インターネット接続の設定手順」をお読みください。

iPhone等/Android端末からインターネットに接続する

本製品は、パソコンを使わずにiPhoneやAndroid端末などからインターネット接続の設定が可能です。

本製品にWi-Fi接続ができるようになったあとで、以下の手順で操作してください。

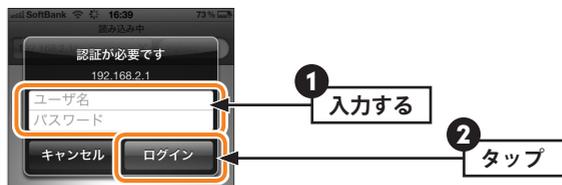
インターネット接続の設定手順

- ① インターネットブラウザを開き、URLに「192.168.2.1」と入力します。



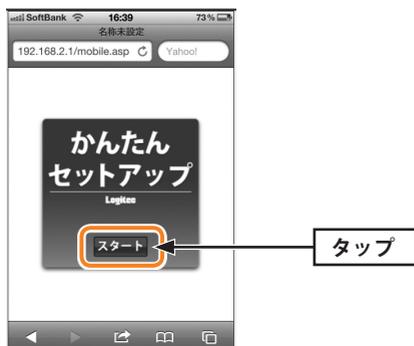
 ブラウザを開いたときに、インターネットに接続できている場合は既に設定が完了しています。

- ② ユーザー名、パスワードに、それぞれ「admin」と入力し、[ログイン]をタップします。



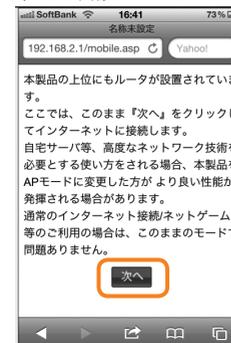
・ すべて半角小文字で入力します。

- ③ [スタート]をタップし、画面の案内に従い設定を進めます。

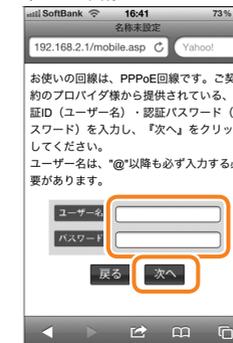


- ④ ご利用の回線によって、以下のいずれかの画面が表示されます。

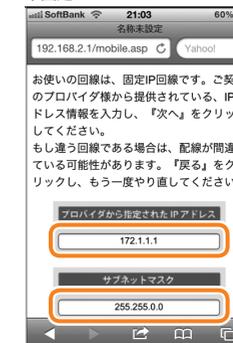
◆DHCP回線



◆PPPoE回線



◆固定IP



◆DHCP回線

[次へ]をタップします。

◆PPPoE回線

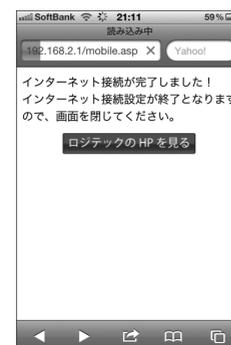
プロバイダより提供された「ユーザー名」「パスワード」を入力し、[次へ]をタップします。

※ユーザー名には、必ず@以降も入力してください。

◆固定IP

プロバイダより提供されたアドレス等を入力し、[次へ]をタップします。

- ⑤ 以下の画面が表示されたら、インターネットへの接続は完了です。



3 NTTサービス情報サイト利用時の設定

本製品でNTT東日本、NTT西日本のサービス情報サイトを利用する場合の設定手順を説明します。このマニュアルのP44「WANインターフェースの設定」や、NTT東日本またはNTT西日本のホームページにある説明もご参照ください。

※「フレッツ・スクウェア」は、平成23年6月1日より「サービス情報サイト」に名称を変更しました。

ここでは、通常のインターネット接続で使用するアカウントを「PPPoE1」、サービス情報サイトで使用するアカウントを「PPPoE2」に登録する例を説明します。



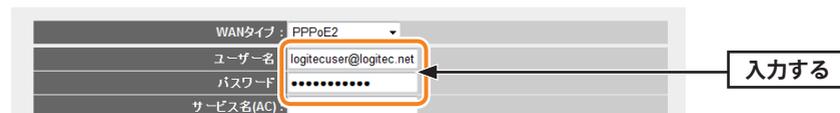
本製品はフレッツ光ネクストのNGN IPv4サービスはサポートしていません。接続にはBフレッツ等の設定方法を使用する必要がありますので、ご注意ください。

1 設定ユーティリティの「WAN」を選択し、画面左側のメニューにある[WAN側設定]をクリックします(→P44「WANインターフェースの設定」)。

2 「WANタイプ」で[PPPoE2]を選択します。画面が2つのアカウントを登録可能な画面に切り替わります。



3 「WANタイプ」の下の「ユーザー名」と「パスワード」に、通常のインターネット接続で使用するアカウント(ユーザー名とパスワード)を登録します。



4 引き続き「PPPoE2」に、サービス情報サイトで使用するアカウントを登録します。

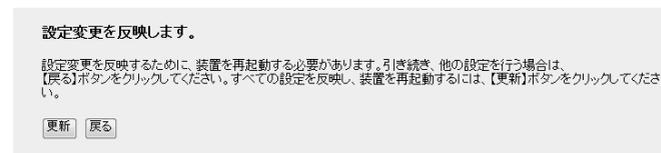


NTT東日本	ユーザー名：guest@flets	パスワード：guest
NTT西日本	ユーザー名：guest	パスワード：flets

5 すべての設定が終われば、「適用」をクリックします。

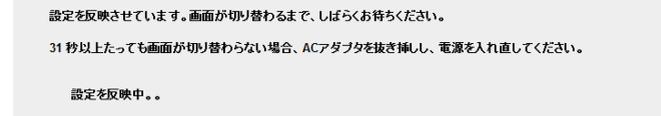


6 「設定変更を反映します。」と表示されます。



- 他の設定を続ける場合→「戻る」をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→「更新」をクリックし、手順7へ進みます。

7 以下のメッセージが表示されます。しばらくすると設定が保存され、ホーム画面に戻ります。



8 ブラウザをいったん閉じます。サービス情報サイトにアクセスするには、Webブラウザのアドレス入力欄に、「http://www.flets/」と入力し、ホームページに接続します。

4 こんなときは



本製品に付属の紙版マニュアル「はじめにお読みください」の「こんなときには」もご参照ください。

無線LAN関係のトラブル

添付CD-ROMのセットアップメニューから閲覧できる「FAQ」もご参照ください。

●無線LANが繋がらない。

①ネットワーク設定で実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか？ プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。

②ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。

◆ケーブルテレビインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。

③本製品のセキュリティ設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか？ セキュリティ設定は、無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定にする必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

●セキュリティ機能を設定後に無線LANが繋がらない。

①セキュリティ設定は、同じ無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定になっている必要があります。設定が少しでも異なる機器はネットワークに接続することができません。

②各セキュリティ機能で使用するパスワードや暗号などの文字列は大文字と小文字が区別されたりします。また、意味のない文字列は入力ミスが発生しやすいので特に注意して確認してください。

◆セキュリティ設定でのトラブルのほとんどがスペルミスや設定ミスですのでよく確認してください。

③設定を変更した直後や設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

●WPSが繋がらない。

①WPSランプが速く点滅している場合は、エラーが発生している可能性があります。もう一度初めからやりなおしてください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。

②入力したPINコードが誤っていることがあります。再度PINコードを自動生成して接続してください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。

共通のトラブル

●インターネットに接続できない。

- ① TCP/IP プロトコルが正しく設定されているかを確認してください。
〈ネットワーク〉画面で TCP/IP プロトコルが設定されているかを調べてください。見あたらない場合は、TCP/IP プロトコルを追加してください。
- ② DHCP サーバ機能を使用していない場合は、IP アドレスを手動で割りあててください。
TCP/IP のプロパティにある〈IP アドレス〉タブで設定します。
- ③ TCP/IP プロトコルの設定が正しいかを確認してください。
プロバイダによって、IP アドレスを自動取得する場合と固定 IP アドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。
- ④ プロバイダから提供された情報をすべて設定したかを確認してください。
IP アドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークパソコンを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

- ① 正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、デバイスマネージャなどで本製品の設定を確認し、OS 側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

●他のパソコンのファイルやプリンタの共有ができない。

- ① ネットワーク設定をしましたか？
無線 LAN が正常に動作していてもネットワーク設定ができていないとファイルの共有やプリンタの共有はできません。

5 パソコンの IP アドレスの確認方法

本製品の設定ユーティリティにアクセスできない場合に、本製品の設定ユーティリティにアクセスするパソコンの IP アドレスがどのようになっているかを確認する方法を説明します。

ここで説明している IP アドレスの確認方法は、本製品に接続する有線クライアントおよび無線子機の IP アドレスを確認するときにも使用できます。

パソコンの IP アドレスを表示する

Windows 8 の場合

- ① メトロ UI 画面でカーソルを右隅に移動し、チャームを表示します。
- ② [検索] を選択します。
- ③ アプリで「cmd」と入力し、検索します。



- ④ 画面右の検索結果に「コマンドプロンプト」が表示されますので、クリックします。
- ⑤ <コマンドプロンプト>画面が表示されます。「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter] を押します。

```
Microsoft Windows [Version 6.2.9200]
(c) 2012 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\test>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace] キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。

「"xxx" は、内部コマンド・・・」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

- ⑥ 「イーサネット アダプター イーサネット※」の「IPv4アドレス」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

```
イーサネット アダプター イーサネット :
接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
IPv6 アドレス . . . . . :2001:a001:88e7:0:b840:44f3:43d2:8763
一時 IPv6 アドレス . . . . . :2001:a001:88e7:0:5daf:432d:efa1:79ed
リンクローカル IPv6 アドレス . . . . . :fe80::b840:44fe:43d2:8763%12
IPv4 アドレス . . . . . :192.168.2.101
サブネット マスク . . . . . :255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . :fe80::20b:a2ff:fe7b:ab9e%12
192.168.2.1
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

- ⑦ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P142「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

Windows 7/Vistaの場合 ※画面はWindows Vistaの例です。

- ① [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。
- ② <コマンドプロンプト>画面が表示されます。「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。

```
Microsoft Windows [Version 6.0.60000]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\master>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。

「"xxx"は、内部コマンド…」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

- ③ 「イーサネット アダプタ ローカル エリア接続※」の「IPv4アドレス」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

```
イーサネット アダプタ ローカル エリア接続 :
接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
リンクローカル IPv6 アドレス . . . . . : fe80::b0ac:15cf:bcb9:d431%8
IPv4 アドレス . . . . . : 192.168.2.100
サブネット マスク . . . . . : 255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . : 192.168.2.1
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

- ④ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P142「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

Windows XP/2000の場合

- ① [スタート]→[(すべての)プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。
- ② <コマンドプロンプト>画面が表示されます。「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。

```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\main-user>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。

「"xxx"は、内部コマンド…」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

- ③ 「イーサネット アダプタ ローカル エリア接続※」の「IP Address」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

```
Windows IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix . . . :
    IP Address . . . . . : 192.168.1.145
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.254
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

- ④ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P142「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

工場出荷時での表示結果

本製品から正常にIPアドレスが割り当てられていると、各パソコンのIPアドレスは「192.168.2.xxx」と表示されます。「xxx」は任意の数字(初期値:100~200のいずれか)です。またサブネットマスクが「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイが「192.168.2.1」と表記されていれば、本製品と正常に接続されています。

6 基本仕様

無線LAN部

規格	IEEE802.11n / IEEE802.11g / IEEE802.11b / ARIB STD-T66
周波数帯域	2412~2472MHz (2.4GHz帯)
チャンネル	2.4GHz帯: Auto / 1~13ch
伝送方式	11n: MIMO-OFDM方式 11g: OFDM方式 11b: DS-SS方式
データ転送速度(理論値)	11n適用時: 最大300Mbps (MIMO使用時) 11g: 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps 11b: 11/5.5/2/1Mbps
アクセス方式	インフラストラクチャ(親機)
アンテナ方式	内蔵ダイポールアンテナ2本
セキュリティ	SSID(ステルス設定可)、マルチSSID、WEP64/128ビット、WPA-PSK(TKIP)、WPA2-PSK(AES)、MACアドレスフィルタリング
設定方式	WPS(ボタン搭載)

WAN/有線LAN部

規格	WAN: IEEE802.3u (100BASE-TX)、IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3x (Flow Control) LAN: IEEE802.3u (100BASE-TX)、IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3x (Flow Control)
コネクタ	WAN: RJ-45 × 1ポート、LAN: RJ-45 × 4ポート
Auto MDI/MDIX	対応
オートネゴシエーション	対応

ルータ、その他一般仕様

ルーティング対応 プロトコル	TCP/IP
インターネット(WAN) 接続方式	PPPoE認証接続(2セッション)、IPアドレス自動取得接続、IPアドレス固定接続
LAN接続方式設定	DHCPサーバ(有効/無効)、固定IPアドレス(手動設定)
セキュリティ	MACアドレスフィルタリング(許可/拒否)、IPアドレスフィルタリング(許可/拒否)
ローカルサーバ機能	ポートフォワーディング、仮想DMZ
ダイナミックDNS (DDNS)	クリアネット(ロジテック提供サービス)、DynDNS等
消費電力(定格)	3.9W
外形寸法	幅24×奥行120×高さ145mm(スタンドは含まず)
質量	約180g(本体のみ)



IEEE802.11n/11g/11b対応 無線LAN ブロードバンドルータ LAN-W301NRシリーズ
ユーザーズマニュアル

発行  ロジテック株式会社 2013年4月30日 第1版

©2013 LOGITEC CORPORATION. All rights reserved.